

高等
日本讀本

三宅米吉
新保磐次 同著

第五

178 3 42		
館藏	一 二 冊	二 四 函
	五 架	號

檢定申請本

K120.8
43.4
52

K120.8

43.4

5

No. 10054

萬
日本讀本
第五

新保磐次
同著

金港堂出版



稿日本讀本。 第五。 目錄。

一、齋藤實盛ノ討死。源平盛衰記。

二、口ノ出シ入レ慎ムベシ。貝原篤信。

三、世界一周ノ話シ。 第四。

四、生唆ト磨墨。源平盛衰記。

五、栗ト枿。

六、世界一周ノ話シ。 第五。

七、鶴越エ。源平盛衰記。

八、世ハ海ノ喩ヘ。貝原篤信。

九、元祿十六年ノ大地震。新井白石。

十、世界一周ノ話シ。 第六。

十一、犬江親兵衛猛虎ヲ擊ツ。瀧澤馬琴。

十二、天保饑饉ノ諭達。徳川齊昭。

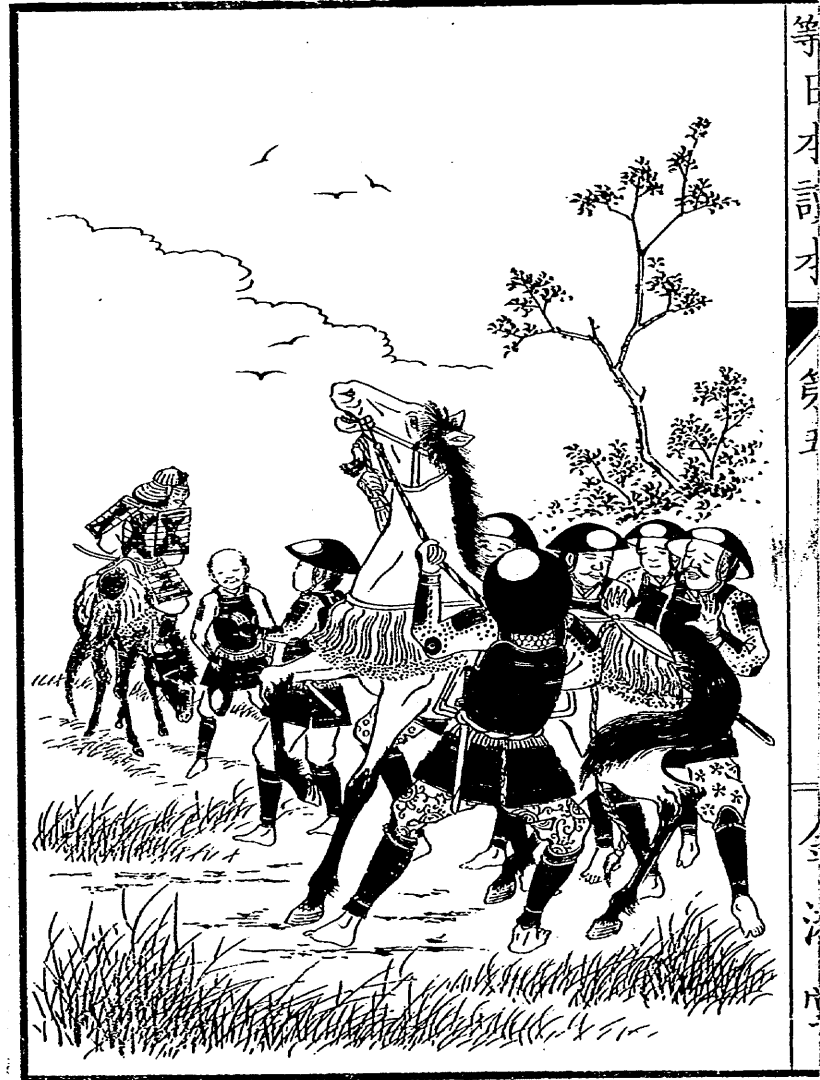
十三、世界一周ノ話シ。 第七。

十四、旅行ノ樂シシ。貝原篤信。

十五、館小六夜箱根ヲ踰ユ。瀧澤馬琴。

十六、安倍仲麻呂。尾崎雅嘉。

十七、人ヲ謗ル勿カレ。貝原篤信。

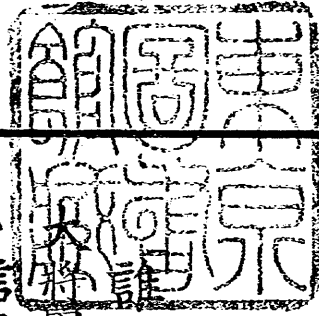


生 倭

等日本讀本。

第五。

齋藤實盛ノ討死。



誰レ人ゾ、只一人残り留マツテ軍シ給フハ。
大將軍カ、侍ヒカ。心憎シ、名乗レ。カク申ス
ハ信濃ノ國諏訪ノ郡ノ住人手塚太郎光盛ト
云フ者ナリ。好キ敵ゾ。名乗り給ヘ、組ミ給
ヘ。

ア、サル者アリト聞ク。思フ様アレバ名

乗ルマジ、汝ヲ嫌フニハアラズ。只首ヲ取ツ
 テ源氏ノ見參ニ入レヨ、好キ所領ノ價ナルベ
 シ、徒ラニ淵瀬ニ捨ツベカラズ、木曾殿ハ見知
 リ給ハンズルナリ。思ヒ切ツタレバ一人留
 マツテ戰フナリ。敵ハ嫌フマジ。軍ノ習ヒ
 ハ勝負ヲスルコソ面白ケレ。寄セ合ヘ、手塚
 ト云フ儘ニ弓ヲバ捨テテ近ク寄セ合ハス。手
 塚ガ郎等主ニ組マセジトテ右手ニ並ビテ中ニ
 隔テタリ。敵ハ押シ並ビテムズト組ミ、己ハ手
 塚ガ郎等ニヤ、餘スマジ。ト云フ儘ニ鎧ノ押シ付

ケノ板ヲツカマヘ、左ノ手ニテ手綱搔イ繰リ、左
 右ノ鎧ヲ強ク踏ンデ引キ落トシ、馬ノ腹ニ引キ
 附ケテ提ゲモテ行ク、足ハ地ヨリ一尺許リ舉ガ
 リタリ。

手塚之ヲ見テ郎等ヲ擊タセジト馳セ並ビテ、
 敵ノ鎧ノ袖ニ搦ミ附キテ、低い聲出ダシテ鎧ヲ
 越エ我レ先ニゾ落チタリケル。敵ハ一人コナ
 タハ二人、三人組ミ合ヒテ馬ヨリ下ヘ落チタリ
 ケリ。敵ハ手塚ガ郎等ヲ押サヘテ刀ヲ拔キ首
 ヲ搔ク。手塚其ノ間ニ敵ノ左手ノ草摺リ引キ

上ゲテ柄モ拳モ透レト刺シ、驢上ニ乗り得テ首ヲ搔キ水モタマラズ斬リニケリ。

手塚敵ノ首ヲ郎等ニ持タセテ木曾ノ前ニ行キ、

手塚光盛名曲者ノ首取ツテ候フ。名乗レト

申セバ存ズル旨アリ、名乗ルマジ、木曾殿御覽

ジ知ルベシト計リニテ名乗ラズ。侍ヒカト

見レバ錦ノ直垂レヲ着タリ。大將軍カト思

ヘバ續ク者ナシ。京家西國ノ者カトスレバ

坂東聲ナリ。若キ者カト思ヘバ面ノ皺七十

餘リニ疊ノリ。老イタル者カトスレバ鬢鬚

黒クシテ盛リト見ユ。何者ノ首ナルラン。

木曾哀レ武藏ノ齋藤別當ニヤアラン。但

シソハ一年義仲が上野へ越エタリシ時稚目

ニ見シガ、白髪ノ糟尾ニ生エタリシカバ、今ハ

七十ニモ餘レバ殊ノ外ニ白髪ニナリヌラン

ニ、鬢鬚ノ黒キハ何ヤラン。面ノ老イ様ハサ

モヤト覺ユ。實ニ不審ナリ。樋口ハ古キ同

僚、見知リタルラン。ア、無慙ヤ、實盛ニ

樋口ハ一ト目打チ見テ、

テ候ヒケリ。

木曾「如何ニ鬢鬚ノ黒キ。」

樋口「サレバ其ノ事思ヒ出デラレ侍リ。實

盛日頃申シ置キ候ヒシハ」弓矢取ル者ハ老體

ニテ軍陣ニ向カハンニハ髮ニ墨ヲ塗ラント

思フナリ。其ノ故ハ合戰ナラヌ時ダニモ若

キ人ハ白髮ヲ見テ侮ル心アリ、況戰場ニシテ

進マントスレバ大人氣ナシト惡ク、退ク時ハ

今ハ分ニ叶ハズト謗ル。實ニ若キ人ト先ヲ

爭フモ憚リアリ、敵モ甲斐ナキ者ニ思ヘリ。

悲シキハ老イノ白髮ニ侍リ。ト云ヒシニ違ハ

ズ墨ヲ塗リテ候ヒケリ。

トテ年頃内外ナク申シシ事ノ哀レサニ、樋口次

郎兼光水ヲ取り寄セテ自之ヲ洗ヒタレバ白髮

ニコソハナリニケレ。

木曾「父ノ帶刀先生ヲバ惡源太義平ガ撃チ

タリシ時、義仲ニ歳ニナリニケルヲ、畠山ニ仰

セテ尋子出ダシ必失フベシト傳ヘタリケル

ニ、如何ニ稚キ者ニ刀ヲ立テン。トテ我レハ知

ラザル由ニテ情深ク、此ノ齋藤別當ガ許ヘ遣

ハレテ、養ヘト云ヒケレバ、請ケ取り養ハント
シケルガ、七箇日置キテ、東國ハ皆源氏ノ家人
ナリ、我レ人ニ憑マレテ此ノ兒ヲ養ヒ立テザ
ランモ人ナラズ、育テ置カンモアタリイブセ
シト案ジナレテ木曾ヘ遣ハシケル志シ、偏ニ
實盛カ恩ナリ。一樹ノ蔭一河ノ流レト云フ
例シモ有ルナレバ、實盛モ義仲ガ爲ニハ七箇
日ノ養父、危キ敵ノ中ヲ計ラヒ出ダシケル其
ノ志シ、爭デカ忘ルベキナレバ、此ノ首ヨク孝
養セヨ。

トテ、サメザメト泣キケレバ兵共モ各袖ヲ絞リ
ケリ。

源平盛衰記。節畧。

口ノ出シ入レ慎ムベシ。

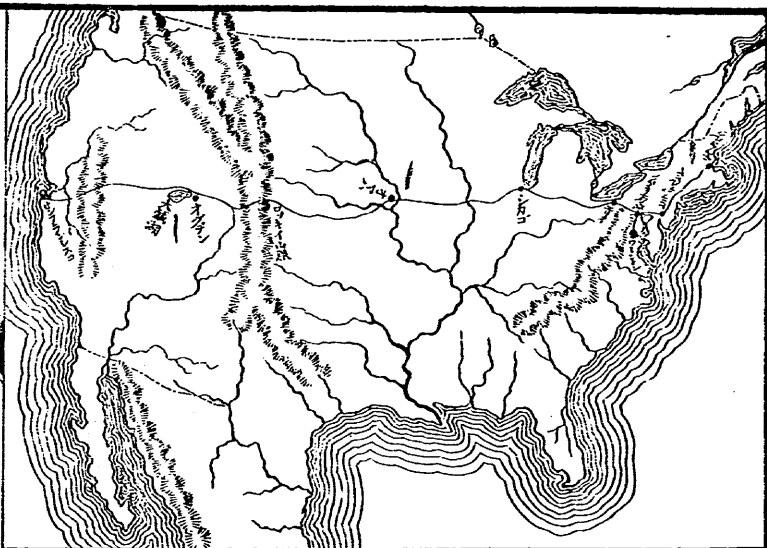
一言ノ過チニテ莫大ノ禍トナリ、一事ノ過チ
ニテ一生ノ憂ヘトナル、慎ムベシ。平生慎ミ
アル人モ事ニ因リ、時ニ因リテ怠リ弛ミヌレバ、一
言一事ノ過チニ因リテ思ヒノ外ニ大ナル禍ト
ナルコトアリ。一言一事モ慎マズンバアルベ
カラズ。

古語ニ病ヒハ口ヨリ入り禍ハ口ヨリ出ヅト云ヘリ。言葉ヲ慎ミテ妄リニ口ヨリ出ダサザレバ禍ナシ。飲食ヲ慎ミテ妄リニ口ニ入レザレハ病ヒナシ。病ヒト禍トノ出デ來ルコトハ天ヨリ降ルニアラズ、皆口ヨリ起コル。ト古人云ヘリ。口ノ出シ入レ慎ムベシ。

貝原篤信。……大和俗訓。

世界一周ノ話シ。 第四。

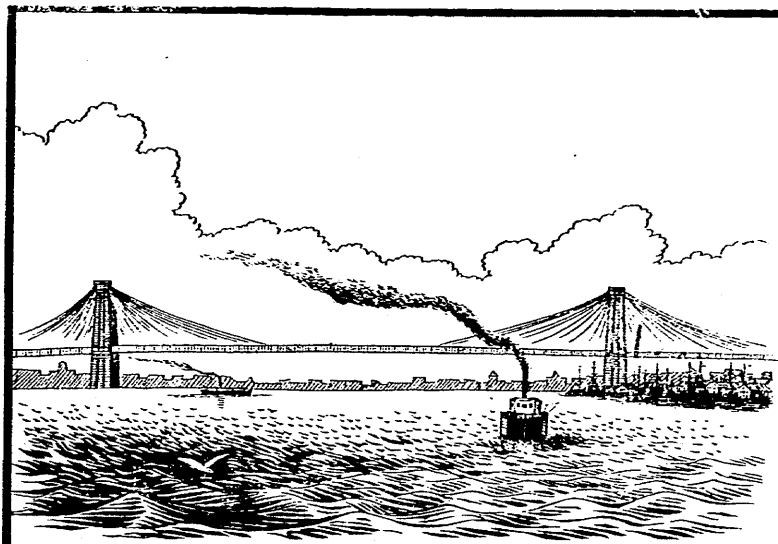
余ハにうよるくニテハまぢうんすくゑやナ



ルふいつふつあべにう
ほてるニ宿リキ、此レに
うよるく第一等ノ大旅
店ナリ。抑まぢうんす
くゑやト稱フル所ハぶ
ろうどゑい(廣巷路ト云
フ義)トふいつふつあべ
にう(第五大路ト云フ義)
ノ斜ニ出デ遇ウ所ニシ
テ中央ニ方形ノ小公園

アリ。園ニ臨ミテ旅店多シ。第五大路ハ此ノ所ヨリ南北ニ延ビ富商豪家ノ居宅軒ヲ並ズ。ぶろろどゑいモ亦南北ニ延ブト雖少シク東西ニ傾キテ第五大路ニ並行セズ。ぶろろどゑいハにうよるく市中尤雜沓ヲ極ムル所ニシテ萬種ノ商店兩側ニ列ビ鐵道馬車荷馬車ノ往來引キモ切ラズ。にうよるくノ富裕ハふいつふつあべにうヲ上リテ知ルベク、にうよるくノ繁昌ハぶろろどゑいヲ下リテ知ルベシ。余一日ぶろろどゑいヲ下リテ下町ニ至リキ。

下町トハ市街ノ南部海ニ近キ部分ノ總稱ニシテ商業最盛ナル所ナリ。まぢろんすくゑやヨリぶろろどゑいヲ下リ行クコトニ三町ニシテゆにねんすくゑやニ至ル。是レヨリ下ハ大賈豪商ノ店店相並ビ、毎店荷物ノ出シ入レニ忙ハシク人道車道ノ往來宛織ルガ如シ。遙カニ下リテ府廳ノ前ニ至ル。府廳ノ鄰リニ郵便局アリ、宏大ナル建テ物ナリ。府廳ノ後ニ有名ナル大橋アリ、東河橋ト云フ。蓋にうよるくトぶろろろんノ間ナル東河ニ架シタレバナリ。



此ノ橋ハ長サ十六町半餘リアリテ世界最大ノ物ナラン。東河ハ名コソ河ナレ、實ハ海峡ナリ。橋ノ水面ヨリ高キコト二十三間餘リナレバ汽船ノ通行ヲ妨グルコトナシ。橋ノ幅ハ十四間餘リアリテ中央ヲ人道トシ、其ノ兩側ヲ馬車道トシ、馬車道ノ外側ニ猶又鐵道アリテ車ヲ走ラス。

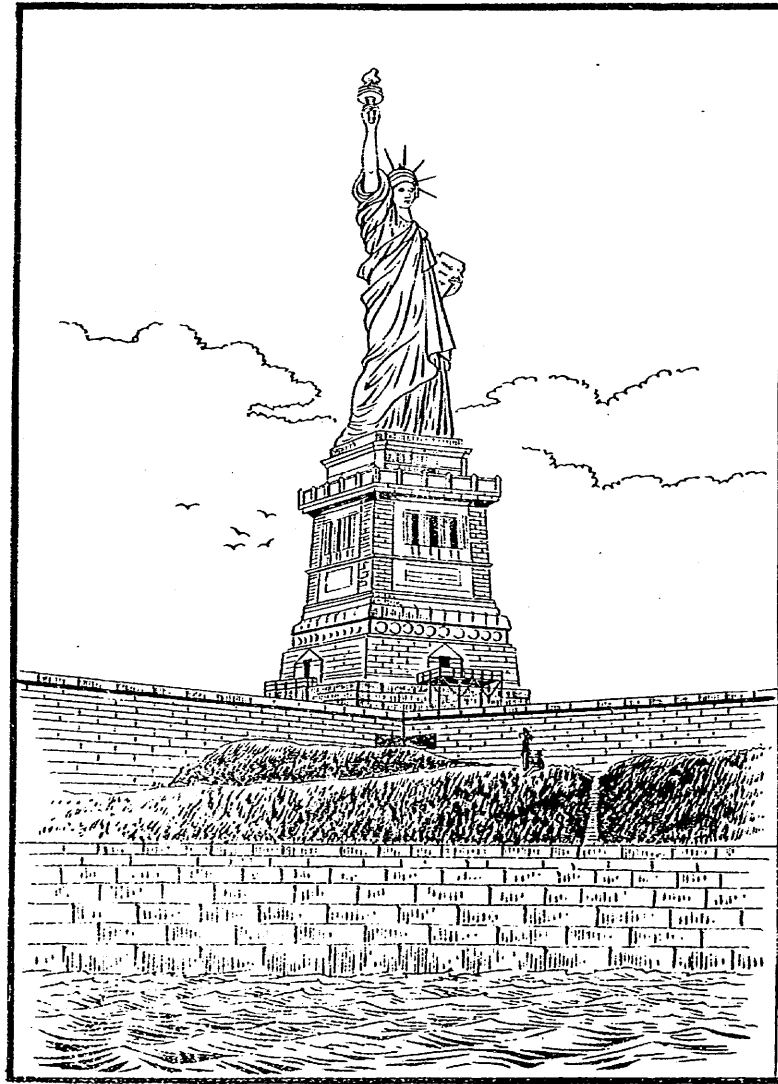
兩岸ノ水際ニ二個ノ大塔ヲ立テ、鋼鐵ノ針金ニテ造リタル直徑一尺五寸餘リノ大綱ヲ此ノ兩塔ノ間ニ引き渡し、此ノ綱ヲ以テ全橋ヲ釣リ

支ヘタルナリ。橋ノ兩端ハ河岸ヨリ遙カニ市内ニ入リテ人家ノ屋上ニ架シタリ。是レ實ニ架空ノ言ニアラズ。之ヲ形容シテ雨降ラザルニ虹出デ、雲アラザルニ龍現ル。ト云フモ猶形容ノ及バザルヲ覺ユルナリ。

府廳ヲ過ギテ更ニ四、五町南スレバ終ニぶろ、うどゑい盡キテ臺場ト云フ所ニ至ル、是レ此ノよるく市街ノ南端ナリ。此ノ所其ノカミ臺場ナリレガ故ニ此ノ名アリト雖、今ハ公園トナリ、港内ヲ見晴ラシテ眺望甚佳シ。夏日海風ノ涼

シキヲ慕ヒテ杖ヲココニ曳ク者多シ。

此ノ所ヨリ少シク陸ヲ離レテべつどろウト云フ小島アリ、此ノ島ニ名高キ自由ノ肖像立テリ。是レハ丈十五丈餘リナル婦人ノ銅像ニシテ右手ニ松明ヲ捧グ。之ヲ載スル所ノ基礎ノ高サモ殆肖像ニ均シクシテ全體ノ高サ三十丈ニ餘レリ。像ノ體內ニ階段アリ、登リテ松明ノ所ニ出ヅルコトヲ得、松明ノ火焰ノ周邊ニハ十人相並ビテ立ツコトヲ得、其ノ大サ推シテ知ルベシ。此ノ肖像ハふらんすノ技術師ばると



るでい氏が鑄造セル者ニテ明治十九年ふらん
す國民ヨリ亞米利加合衆國民ニ贈與シタル者
ナリ。毎夜其ノ松明ノ所ニ電氣燈ヲ點シテ港
内ヲ照ラシ以テ燈明臺トナセリ。

電氣燈ノ序ニ云ハン。合衆國ノ都府都府ニ
ハ店頭ニ電氣燈ヲ用フル所多ク、公園ニモ百尺
竿頭數多ノ電光ヲ發タシムル所アリ。其ノ明
カルキコト恰白晝ノ如ク、月アリトモ却リテ其
ノ色ヲ失ハシム、眞ニ「不夜城」ト云フベシ。
余又一日まぢ了んすくゑやヨリぶろうどゑ

いヲ北ニ行キケリ。行クコトニ、三町ニシテ第
六大路ト交截スル所ニ至ル。第六大路ハ第五
大路ト並行スル大街ニシテ、此ノ街路ヲ通シテ
鐵柱ヲ以テ支ヘタル大橋ノ如キ者ヲ架シタリ、
是レ市中ノ鐵道ナリ。仰ギテ汽車ノ烟リヲ揚
ゲツツ此ノ上ヲ走ルヲ視レバ、恰龍ノ雲間ニ翔
ルカト恠シマレ、俯シテ其ノ走ル音ヲ聞ケバ、雷
ノ將ニ落チ來タラントスルガ如シ。にうよる
く市中此ノ類ノ鐵道此ノ外ニ猶三線アリ、何レ
モ南北ニ走ル。余此ノ汽車ニ乘リテ第六大路

ヲ北ニ行キテ中央公園ニ至リキ。途中車窓ヨ
リ大路ノ兩側ナル家家ノ三階又ハ四階ノ内ヲ
覘キ見ルコトヲ得タリ。

此ノ公園ハ名ノ如クにうよるくノ中央ニア
リテ北端ハ貯水池ニ續キテ遠ク郊外ニ至ル。
園内ニ池アリ丘アリ、天然ノ風景ニ人エヲ加ヘ
タル者ナレバ見所多シ。園内又博物館アリ、動
物園アリ、投球ノ遊戲ヲナスベキ廣キ平地モア
リ。

余にうよるくニ遊ブコト二週間計リニシテ

ぼすどんニ向カヒテ出立ツセリ。汽車ニテ行ケバ八時間ヲ費ヤサズ。路こんぬちかつと州ノにうはぶん、ろうどあいらんど州ノぶるびてんすヲ過グ何レモ大都會ナリ。にうはぶんニいなるこれにトト云ヘル有名ナル大學アリ。

ぼすどんハマさちゆせつと州ノ都ニシテ、且商業盛リナル港ナリ。此ノ都府ハにうよるくヨリモ古キ所ニシテ米國ノ歴史上ニ有名ナル地ナリ。都府ノ中央ニぼすどんあんもん(共有地ノ義)ト稱スル公園アリ、是レ昔始メテ此ノ地

ニ植民セシ時ヨリ共有トシテ取り除ケ置キタル地ナリト云フ。園ノ南ニどれもんど街アリ、府中第一ノ繁華ナル街ナリ。又其ノ東北ニびいこん街アリ、地高ク丘ヲナス。ココニ州廳アリ、其ノ屋球形ヲナシ金ヲ塗リタリ、遠ク之ヲ望メバ金色日ニ映ジテ甚美シ。どれもんど街ヲ東ニ行ケバ市街本部ニ至ル、即商業盛リナル地ニシテ人馬ノ往來雜沓ヲ極ム。

ぼすどんハ海灣ニ突出シタル小半島ニアリ、故ニ其ノ三方ハ皆水ナリ。然レドモ狹キ海峡

ヲ間ニシテ他ノ半島ニ相臨メリ。東ぼすどん、南ぼすどん、ちやあれすたうん、かんばんりつち等何レモ他ノ半島ニアレドモ橋ヲ以テぼすどん本部ニ續ケリ。

ちやあれすたうんニ有名ナルばんかる丘ノ記念塔アリ。此ノ丘今ハ市街ノ内ニアリテ人家四方ヲ取り圍ミタレドモ、百有餘年前ニハ人家一モアラザリシカバ、獨立戦争ノ起コリシ始メココニ大戦争アリキ。塔ハ即此ノ戦争ノ記念ノ爲ニ建テタル者ナリ。高サ二十二丈餘リ

ニシテ内ニ階段アリ、登リツツ其ノ數ヲ數ヘシニ百九十八階アリケリ。頂上ノ室ニ至レバ四方ニ窓アリ、是レヨリ瞰下セバぼすどん全都、港内及ビ郊外マデ總ベテ眼下ニアリ。海ハ蒼ク、山ハ緑ニ煉瓦ノ家ハ赤シ、蓋我が國ニテハ見ルベカラザル奇觀ナリ。

又かんばんりつちニハはあばあど大學トテ米國第一ノ大學校アリ。

余ぼすどんニ逗留スルコト一週間計リニシテ、ココヨリいぎりす通ヒノ汽船ニ乘リテ大西

洋ヲ渡リキ。大西洋ハ冬ハ殊ニ浪荒ラクシテ
余ガ乘リタル船ハ甚巨大ナリシモ甚シク動揺
シケレバ、余ハ甲板ニ出ヅルコト能ハズ常ニ室
内ニ卧シ居タリキ。航海七日ニシテあいるら
んどノ南岸ナルくゐんすたりん港ニ着キ、驕又
出發シテ其ノ夜いぎりすノりばあぷりうる港ニ
着キヌ。

生イケツキ唆スルズミト磨墨。

梶原源太ハ磨墨ニ優ル馬モヤ有ラント思ヒ

テ、大名ノ中ヲ廻リテ馬共ヲ見ルニ、九郎御曹司
ノ青海波、蒲御曹司ノ月ノ輪、和田小太郎ノ白浪
畠山ノ秩父鹿毛、是レ等ヲ始メトシテ大名小名、
五十匹三十四匹、五匹、十匹、牽カセタリ。サレドモ
磨墨ニ優ル馬ナレ。源太大ニ悦ビ、一重上リタ
ル所ニ居テ、牽キ廻シ牽キ廻シ愛シ居タリ。

* * * * *

佐佐木四郎高綱ハ生唆ニ黄覆輪ノ鞍ヲ置キ、
白キ轡ニ、二ツ引キ兩ノ手綱結ンデ舍人六人附
ケテ浮島ガ原ヲ西ヘ向ケテゾ牽カセタル。原

中宿ヲ過クル程ニ平平タル春ノ野ナレバ、生唆
斜ナラズ勇ミ身振ヒシテ三聲四聲嘶キタリ。
鐘ヲ撞クガ如クナリケレバ、遙カニ二里ヲ隔テ
タル田子ノ浦ヘゾ響キタル。

畠山之ヲ聞キテ、コハ如何ニ、生唆カ鳴ク音ノ
スルハ、誰レ人ノ給ヒテ將井テ來タルヤラン。ト
云フ。半澤六郎申シケルハ、是レ程ノ大勢ノ中
ニ逸物共多ク侍リ、何ノ馬ニテカ侍ラン。……其
ノ上生唆ハ蒲殿、梶原ナドノ申サレケレドモ御
免レナレト承ル、サテハ誰レ人ニカ給フベキ。ト

云ヘバ、人人實ニモト思ヒテアザ笑ヒテゾアリ
ケル。畠山重忠ハ「一度モ聞キ損ズマジ、人ニ給
ヒ、給ハズハ知ラズ、慥ニ生唆ガ聲ナリ、只今思ヒ
合ハセヨ。」ト云ヒモ果テヌニ、生唆ハ東ノ方ヨリ
舍人六人牽キモタメズ白泡カマセテ出デ來タ
リ。サテコソ畠山ヲバ神ニ通ジタルヤラント
申シケレ。

源太ハ磨墨ヲ賞メ愛シテ居タル所ヲ、舍人共
生唆牽キテゾ通りケル。ユエシク見エツル磨
墨モ優ル生唆ニ逢ヒタレバ無下ニウテテゾ見

エタリケル。源太之ヲ見テ、蒲御曹司ノ賜ハル
カ、九郎御曹司ノ賜ハルカ、好キ序トテ院へ進ラ
セラルルカト思ヒテ、郎等ヲ以テ問ハス。

郎等、其ノ御馬ハ何方へ參リ、如何ナル人
ノ御馬ゾ。

舍人、是レハ佐佐木殿ノ御馬。

佐佐木殿トハ誰ゾ、三郎殿カ、四郎殿カ。

四郎殿ノ御馬。

源太此ノ事ヲ聞キ口惜シキ事ニコソ。景季
再三望ミ申シツルニ御免シナキ馬ヲ高綱ニ給

ヒケルコトノ恨メシサヨ。佐佐木ニ給フ程ナ
ラバ、先ノ所望ニ付キテ景季ニ給フベシ、景季ニ
給ハヌ程ナラバ後ノ所望ナリ、高綱ニ給フベカ
ラズ。大將軍タル人ノ源平ノ大事ヲ前ニ抱ケ
テ憎クモ偏頗シ給ヘリ。是レ程ノ御氣色ニテ
ハ千世ヲ榮ユベキ世ノ中ニアラズ。思ヘバ電
光朝露ノ如クナリ。イツ死ナンモ同ジコト。
日頃ハ佐佐木ニ宿意ナシ、時ニ取テ日ノ敵ナリ。
高綱サル剛ノ者ナレバ、サウナクヨモセラレジ、
互ニ引ツ組ンデ落チ重ナリ、腰ノ刀ニテ刺レ違

へ、恥ヂアル士、二人失ヒテ鎌倉殿ニ大損取ラセ奉ラシ。ト思ヒテ待ツ程ニ、佐佐木爭デカカクトハ知ルベキナレバ、十七騎ニテ差シクツロゲテ歩マセ來タリ。

源太ハ最後ト思ヒツツ磨墨ニ乘リ、太刀モ持タズ、刀計リゾ挾シタリケル。遙カニ佐佐木ニ目ヲ掛ケテ眞横ニ歩マセ塞グ。高綱之ヲ見テ郎等共ニ申シケルハ、「ココニ叩ヘタルハ梶原源太ト覺エタリ。アノ氣色ヲ見ルニ馬ノ立テ様人ヲ待ツ様、唯事トハ覺エズ。生唆故ニ必高綱

ニ組マント思フ意趣アルラン。鎌倉殿ノ心セヨトハ此ノ事ニコソ。……トササヤギテ打チ通ラントスル處ニ、源太、

「如何ニ、佐佐木殿、遙カニ見參シ奉ラズ。アノ御馬ハ上ヨリ給ヒテカ。」

高綱莞ト打チ笑ミテ、實ニ久シク見參シ奉ラズ。去年十月ノ比ヨリ近江ニ侍リツルガ、近キニ付キテ京ヘ打ツベカリツレドモ、暇申サデハ其ノ恐レアリ、又何方ヘ向カヘトノ仰セヲ蒙ラント存ジテ、三日ニ鎌倉ニ馳セ下

ラント打ッ程ニ、只一匹持ちタリツル馬ハ疲
レ損ジヌ。サテハ乗り替ヘナシ。如何ニス
ベキト思ヒ煩ヒ、御廐ノ馬一匹申シ預カラバ
ヤト存ジテ、内内伺ヒ聞ケバ、磨墨ハ御邊ノ賜
ハラセ給ヒケル、生唆ハ御邊モ蒲殿モ再三御
所望アリケレドモ御許シナシト承ル。サテ
ハ高綱ナドが給ハラシコト叶ヒ難シ、如何ニ
セント案ズル程ニ、抑モ是レハ君ノ御大事ナ
リ、後ノ御勘當ハ兎モ角モアレ、盗ミテ乗ラン
ト思ヒテ御廐ノ小平次ニ心ヲ入レ、盗ミ出ダ

シテ夜ニ紛レ酒勾ノ宿マデ遣ハシテ此ノ曉
ニ牽カセタリ。只今ニヤ御使ヒ走ラセテ不
思議ナリト云フ御氣色ニヤ預ラント安キ心
ナシ。若御勘當モアラン時ハ然ルベキ様ニ
見參ニ入レ給ヘ。

トゾ陳ジタル。

源太真事ト心得テ實ニ實ニ佐佐木殿、輒ク
モ盗ミ出ダシ給ヘリ。此ノ定ナラバ景季モ
盗ムベカリケリ。正直ニテハ良キ馬ハ儲ク
マジカリケリ。

ト狂言シテ打チ連レテコソ上リケレ。

源平盛衰記。節略。

栗ト柿。

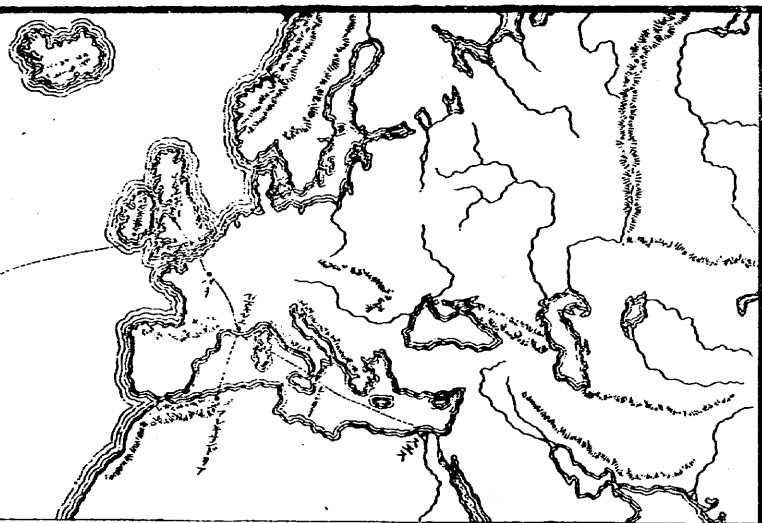
栗ハ元來厚着ヲ好メリ、栗色ノ上衣ニ志ぶき下着ヲ着シ、上ニハ蝟ノ皮ニ似タル外套ヲ纏ヒ柿ヲ顧ミテ曰ハク「柿君寒クハアラヌカ。秋風モ肌寒ク成リヌルニ其ノ柿色一枚トハ氣ノ毒ナリ。君モシ厭ハズバ余ガ下着ヲ脱ギテ君ニ與ヘン。」

柿曰ハク「君ノ深切ハ實ニ謝スルニ辭ナシ。然レドモ、ツクヅク考フルニ、君ハ幼弱ノ時ヨリ其ノ肉旨クシテ且脆シ、モシ澁ヲ被リテ其ノ旨キヲ隠シ、皮ヲ被リテ其ノ脆キヲ守ルニアラズンバ、焉ゾ能ク烏ノ嘴ヲ逃レテ今日ニ至ルヲ得ン。余ノ猶熟セザルヤ、肉硬クシテ且澁シ、饑エタル烏モ余ヲ見ルコトヲ欲セズ、是レヲ以テ余ガ皮薄シト雖、安然トシテ害ヲ免レテ以テ今日ニ至レリ是レ余ガ福ナリ。且君日蔭ノ柿ヲ見ヨ、日光ヲ受ケザル者ハ肉熟セズ、色發セズ。余

モシ貪リテ君ノ賜ヲ被ラバ亦彼ノ日蔭ノ者ト
同ジカラシム。

世界一周ノ話シ。 第五。

りばあぷりるハ世界第一ノ港ト豫子テ聞キ
ツルニ違ハズ巨大ナル波止場海岸ニ相並ビ、船
舶ノ出入引キモ斷ラズ、實ニ世界第一ノ貿易場
ト見受ケラレタリ。一夜ヲ船ニ明カシテ朝マ
ダキニ上陸シ直ニ汽車ニ乗り込ミテろんどん
ニ向カヒヌ。



途上見ル所ノ景色ハ
曾テ亞米利加ニ於テ見
シトハ異ナル所少カラ
ズ。市邑ノ家屋ハ古ク
黒ズミタルガ多ク、高サ
モ三、四階ニ止マリテ七、
八階ノ建テ物ハ少シ。
街路ハ幅狭ク、人ハ多ク
弊衣ヲ着タリ。蓋米國
ハ國新シクシテ家屋ノ

建築、道路ノ敷設皆近來ノ技術ニ成リ、且人口少
キガ故ニ貧人少シ。之ニ反シテ英國ハ國古ク
シテ、家屋道路ハ數十年乃至數百年ノ古體ヲ存
スル者多ク、又人口多キガ故ニ貧民多シ。

然レドモ野外ノ景色ヲ見ルニ、丘陵平地ハ盡
ク牧場又ハ田圃トナシ、牛、羊ヲ飼ヒ、麥、蔬ヲ作レ
リ。又田野ノ間ニハ清潔ナル村落彼レコ此コ
ニ散在セリ。鐵道線路ノ兩側ニ生ケ籬ヲ植エ、
鐵道ヲ横切レル人道ハ皆瓦、石ヲ以テ築キ上ゲ
タリ。總ベテ野外ノ景色ノ人エヲ加ヘテ殘ス

所ナキ様ハ全國恰一大園庭ノ如シ。英人ハ我
ガ日本ノ田圃耕耘ノ行キ届キタルヲ稱シテ「一
國舉ゲテ花園ナリ」。ト云ヒシガ、余モ亦英國ノ野
景ヲ稱シテ園庭ト云ハン。蓋我が國ト英國ヲ
除キテハ他ニカク計リ人エヲ田野ニ盡クシタ
ル所ナシ。

田野ノ景色カクノ如クナルニ、路都邑ヲ過グ
ル時遙カニ之ヲ望メバ、寺院ノ高塔ノ雲際ニ聳
ユルアリ、車森林ノ邊ニ至ル時近ク之ヲ覘ヘバ、
某侯伯ノ邸宅ノ樹間ニ立テルアリ。然ノミナ

ラズ、アナタノ丘ニ一叢茂レル森ノ間ニ石造リ
ノ天守メキタルガ立チタルハ、本丸カ、西ノ丸カ、
何人ノ城跡カ。今ハ石モ崩レテ住ム人モナク、
晝ハ牧童羊ヲ追ヒテココニ草カヒ、夜ハ老梟獨
之ヲ占領スルナラン。昔某侯之ヲ守レル時某
將軍之ヲ攻メシナド深キ謂ハレノアルナラン。
其ノ人去リテ、在リシ世ノ名残リニ残ルハ只、是
レノミ。他郷ノ人ト雖之ヲ見テ心ヲ傷マレム
ルコト深キニ、増シテ此ノ國ノ人ニシテ之ヲ見
バ、サゾナ昔ノ忍バレシ。

りばあぷらるヨリ八時間許リニシテろんど
ん市中ノいらすどん停車場ニ着キヌ。余ハソ
コノいらすどんほてるニ宿リ、數週間逗留シテ
市中市外ノ諸所ヲ觀キ。

ろんどん市中觀ルベキ者多キ中ニ國會議事
堂ハ最有名ナル建テ物ナリ。余先之ヲ觀ント
テ馬車ヲ驅リテ行ク。途ねつくすふれるど街
ヲ過グ甚賑シキ街ナリ。此ノ街ヨリ南數町ニ
シテ一ノ辻アリ。コハ數街相集マレル所ニシ
テ廣キ空地ナリ。其ノ中央ニ高サ十四丈ノ石

柱ヲ立テ其頂キニ故海軍大將ねるるんノ肖像ヲ安置セリ。ねるるんハ屢ふらんす皇帝なほれねんノ海軍ヲ破リ終ニすぺんノ南とらふあるがるノ戦ヒニ於テ討死シタレドモなほれねん遂ニ英國ヲ攻メザリシハ將軍ノ力大ニ居ルガ故ナレバ英人ハ今ニ將軍ノ大功ヲ稱シテ止マズ。此ノ所ハ全ク將軍ノ功ヲ表スル爲ニ設ケタル者ニシテ將軍戰死ノ地名ヲ取リテとらふあるがるすくゑヤト名ヅケタリ。

此ノ所四方大厦軒ヲ並べ往來絡繹タリ。北

ニハ國立美術館アリ、内ニ古今ノ名畫ヲ陳列セリ。北東ニハセンとまるちんト云フ寺院ノ高塔聳エタリ。東ニハ宏大ナル旅店多シ。蓋此ノ地ハ江ノろつぱ大陸ニ連續セル鐵道ノ極端ナルちやりんぐろす停車場ニ接ス。西及ビ南ニハ商店多シ。

ねるるんノ肖像ハ南ニ面セリ、其ノ正面ニ一街アリほわいとほたる街ト云フ。此ノ街ノ兩側ニ官省多シ。行クコト數町ニシテ終ニ國會議事堂ニ至ル。議事堂ハ宏大ナル建テ物ニシ

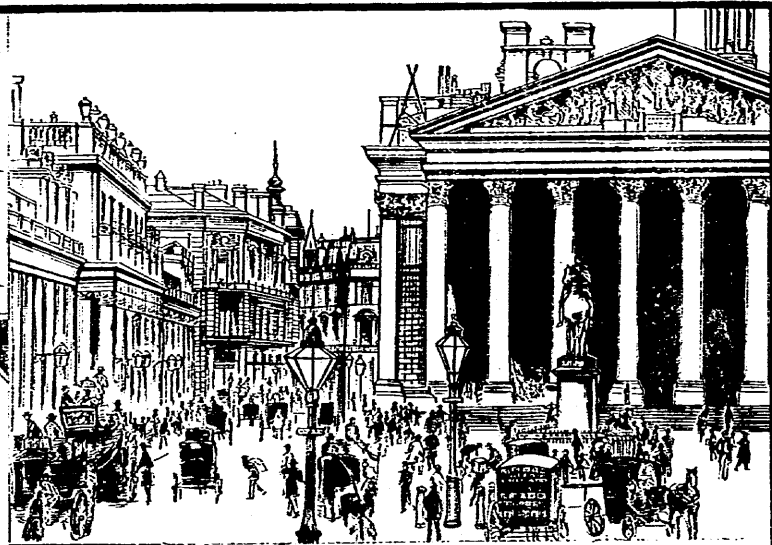
テ、以むす河ヲ後ニセリ。其ノ内外美ヲ盡クセルコトハわーんとんノ議事堂ニ勝レタリト雖、地低キが故ニ遠ク望ムベカラズ、且ろんどん市中烟霧多キが故ニ外面汚損シテ光リナシ。

議事堂ニ對シテ忍すどみんすどる寺院アリ。是レハ英國ノ國寺ニシテ國王ノ祝祭ヲ行フ所ナリ。堂宇ノ莊嚴筆舌ノ及ブ所ニアラズ。堂内古來ノ國王、王族、國家ニ大勲アル政事家及ビ著名ナル學士文人ノ肖像ヲ安置ス。英人ハ死シテココニ祭ラルルヲ以テ無上ノ榮譽トス。

ココヨリ西ニせんどぶにむすト稱フル公園アリ、此ノ邊皇族及ビ貴族ノ住家多シ。園ノ西ニ王宮アリ、ばつきんがむ宮ト云フ。國王ろんどんニ來タル時驛ヲココニ駐ムルナリ。外見甚美ナラズト雖、宏大ナル建テ物ナリ。

余又一日ろんどんノ古城ヲ觀ニ行キシガ、ねつくすふ、ねるど街ニテ乗り合ヒ馬車ニ乗り此ノ街ヲ東ニ向カヒテ行キケリ。ろんどん其ノ他歐米ニテハ通常ノ馬車ノ多キコトハ我が國ノ人力車ニ均シ。其ノ外ニ鐵道馬車アリ又乘

リ合ヒ馬車アリ。乗リ合ヒ馬車ト云ヘドモ我が國ノ乘リ合ヒ馬車ノ如キ汚穢ナル者ハナシ。而シテろんどんノ乘リ合ヒ馬車モ鐵道馬車モ皆二階アリ、即、屋根ニ椅子ヲ並べ、其ノ周邊ニ欄ヲ設ケタルナリ。故ニ是レ等ノ馬車ハ甚丈高ク見ユ。婦人ハ大抵下ニ乘リ屋根ニ上ル者ハ皆男子ナリ。余等ノ如キ市中見物ヲ目的トスル旅人ニハ乘リ合ヒ馬車ノ屋根程都合好キ乘リ物ナシ。殊ニ馭者ノ傍ニ坐ヲ占メテ、アレハ如何ナル建テ物ゾ、是レハ誰ガ家ゾト問ヒ尋子



ツツ行ケバ案内者ヲ雇フヨリモ便利多シ。わつくすふねるど街ノ東ニ續キテぼるぼるん街アリ、此ノ街ノ東端ニ中央郵便局アリ、外見甚穢シ。其ノ南街路ノ後ニせんとぼるる寺院アリ、ろんどん第一ノ高キ建テ物ナルベシ。此

ノ所ヨリ東ノ街路ヲちいぶさいど街ト云フ、往來尤雜沓ヲ極ム。此ノ街ノ東端ニ至レバろんだん府知事ノ官邸、英國銀行、ろたやるにきすちにんぶ諸商取り引き所等宏大ナル建テ物相集マレリ。英國銀行ハ建テ物華美ナラズ又高大ナラザレドモ、外部頗堅固ニ見ユ。此ノ銀行ノ事業ノ盛大ナルコトハ恐ラクハ世界第一ナルベシ。ろたやるにきすちにんぶハ前面甚壯麗ナル建テ物ナリ。諸商毎日ココニ會シテ商品ノ取り引きヲ相談ス。

府知事ノ官邸ノ横通りヲろんばあど街ト云フ。此ノ邊銀行多シ。此ノ街ヲ東ニ一町程行キテ右折シ稍行ケハ路傍ニ高塔立テリ。今ヨリ二百餘年前ニ六日間燒ケ續キタリト云ヒ傳フル未曾有ノ大火アリケリ。此ノ塔ハ其ノ記念ノ爲ニ建テタル者ナリ。此ノ塔ヲ過ギテ稍行ケバ名高キろんだん橋ニ至ル。橋ハてにむす河ニ架シタル者ニテ甚長シ、建築モ亦好シ。橋上人車ノ往來絡繹トシテ、荷物ノ運搬頻繁タリ。



橋ヨリ前ノ高塔マデ
立ち戻リ右折シテ二町
程行ケバろんどん古城
ニ至ル。此ノ城ハ甚古
キ者ナリ、數修補營繕セ
レ者ナレドモ、其ノ始メ
ハありやむぜこんけろ
るノ世ニアルベシ。始
メハ王宮タリ城塞タリ
レト雖、歷史上ニハ牢獄

トシテ尤ヨク知ラレタリ。今ハ武庫トナレ古
代ノ武器ヲ陳列シテ衆庶ノ縦覽ヲ許シ、又國王
ノ御物冠、杖ノ類ヲモ陳列セリ。又獄室ノ縦覽
ヲモ許ス、其ノ室ニ入りシ人々ノ中ニハ或ハ惡
逆無道ニシテ罪ヲ犯シタルモアリ、或ハ忠誠ナ
ルモ讒ニ遇ヒテ冤ニ死シ史上ニ名ヲ留メタル
者モ多シ。室内ノ四壁ニ囚人ノ書キ殘セル書
蹟アリ、或ハ簡短ナル文句、或ハ姓名ノミヲ印シ
タルナレドモ以テ當時此ノ室ニ閉チ籠メラレ
テ愁苦悲歎セシ様ヲ思ヒ遣ルニ足ル。城門及

ビ城内諸所ヲ守ル者ハ皆異形ノ服ヲ着タリ。
蓋英國古制ノ軍衣ナラン、上ノ圖ニ就キテ見ル
ベシ。此ノ城てにむす河畔ニアリ、此ノ所ヨリ
てにむす河底ヲ通ジテ隧道アリ、步行シテ南岸
ニ到ルベシ。

鷓越エ。

大將軍義經一萬餘騎ヲ二手ニ分チ實平ニ七
千餘騎ヲ差シ副ヘテ一ノ谷ノ西木戸口ニ差シ
遣ハス。吾ガ身ハ三千餘騎ニテ一ノ谷ノ後鷓

越ヲ落トサントテ丹波路ヨリ搦メ手ヘコソ向
カハレケレ。兵共是レハ聞コユル惡所ニテア
ルナリ、同ジク死スルトモ敵ニ逢ヒテコソ死ニ
タケレ、惡所ニ落チテハ死ニタカラズ。アハレ、
此ノ山ノ案内者ヤアル。ト口口ニ申シケリ。コ
コニ武藏ノ國ノ住人平山武者所進ミ出デテ季
重コソ此ノ山ノ案内善ク存知仕リテ候ヘ。ト申
シケレバ、御曹司和殿ハ東國育チノ者ハ、今日始
メテ見ル西國ノ山案内者大ニ誠シカラズ。ト宣
ヘバ、季重重子テ申シケルハ「コ」ハ御誕トモ覺エ

候ハヌ者カナ。芳野初瀬ノ花ヲバ、見子ドモ、歌
人ガ知リ、敵ノ籠モリタル城ノ後ノ案内ヲバ剛
武者ガ知リ候フトゾ申シケル。是レ又傍若無
人ニゾ聞コエシ。又武藏ノ國ノ住人別府小太
郎清重トテ生年十八歳ニ成リケルガ進ミ出デ
テ申シケルハ父ニテ候ヒシ義重法師ガ教ヘ候
ヒシハ譬ヘバ山越シノ狩リヲセヨ、又ハ敵ニモ
襲ハレヨ、深山ニ迷ヒタランズル時ハ老馬ニ手
綱結ビテ打チ懸ケ先ニ追ヒ立テテ行ケ、必道ヘ
出デンズルゾトコソ教ヘ候ヒシカト申シケレ

バ、御曹司優レウモ申シタル者カナ。雪ハ野原
ヲ埋ムトモ、老イタル馬ゾ道ハ知ル。ト云フ例シ
アリ。トテ白茸毛ナル老馬ニ鏡鞍置キ、白轡ハケ、
手綱結ビテ打チ懸ケ、先ニ追ヒ立テテ未知ラヌ
深山ヘコソ入り給ヘ。

頃ハ二月初メノ事ナレバ、峰ノ雪ムラ消エテ
花カト見ユル所モアリ、谷ノ鶯音ヅレテ霞ニ迷
フ所モアリ。登レバ白雪皓皓トシテ聳エ、下レ
バ青山峨峨トシテ峰高シ、松ノ雪ダニ消エマラ
デ苔ノ細道幽カナリ。嵐ニタグフ折り折りハ

梅花トモ亦疑ハレ、東西ニ鞭ヲ揚ゲ駒ヲ早メテ
行ク程ニ、山路ニ日暮レスレバ皆下リ居テ陣ヲ
取ル

ココニ武藏坊辨慶或ル老翁一人具シテ参リ
タリ。御曹司「アレハ如何ニ」ト宣ヘバ、是レハ此
ノ山ノ獵師ニテ候フト申シケレバ、

「サテハ案内善ク知リタルラン。」

「争デカ存知仕ラデハ候フベキ。」

御曹司「サゾアラン。是レヨリ平家ノ城郭
一ノ谷ヘ落トサント思フハ如何ニ。」

「ユメユメ叶ヒ候フマジ。凡三十丈ノ谷、十
五丈ノ岩崎ナドヲバ容易ク人ノ通フベキ様
モ候ハズ。其ノ上城内ニハ落トシ穴ヲモ掘
リ、菱ヲモ植エテ待チ参ラセ候フラン。益シ
テ御馬ナドハ思ヒモ寄り候ハズ。」
ト申シケレバ、御曹司、

「サテ左様ノ所ハ鹿ハ通フカ。」

「鹿ハ通ヒ候フ。世間ダニ暖カニ成リ候ヘ
バ、草ノ深キニ卧サントテ播磨ノ鹿ハ丹波ヘ
越エ、世間ダニ寒クナリ候ヘバ、雪ノアサリニ

食マントテ丹波ノ鹿ハ播磨ノ印南野ヘ越エ候フ。

トゾ申しケル。御曹司、

「サテハ馬場ゴサンナレ。鹿ノ通ハンズル所ヲ馬ノ通ハザルベキ様ヤアル。サラバ廳汝案内セヨ。」

ト宣ヘバ、

「此ノ身ハ年老イテ如何ニモ叶ヒ候フマジト申ス。」

「サテ汝ニ子ハ無キカ。」

「候フ。」

トテ熊王トテ生年十八歳ニ成リケル小冠者ヲ奉ル。御曹司廳髻取り上ゲサセ給ヒテ、父ヲバ鷲尾莊司武久ト云フ間、是レヲバ鷲尾三郎義久ト名乗ラセテ、一ノ谷ノ先打タセ案内者ニコソ具セラレケレ。平家亡ビ源氏ノ世ニ成リテ後鎌倉殿ト中違ヒテ奥州ヘ下リ、撃タレ給ヒシ時鷲尾三郎義久ト名乗リテ一所ニ死ニケル兵ナリ。

源平盛衰記。

世ハ海ノ喩ヘ。

世ハ海ナリ、身ハ舟ナリ、志シハ楫ナリ。楫ヲ
惡シク操レバ行クベキ方ニ行カズ、風波ニ遇ヘ
ハ舟覆ルガ如シ、志シノ持チ様肝要ナリ。惡シ
ク志シヲ持テバ身ヲ覆ス、楫ノ操リ様惡シクシ
テ舟ヲ覆スガ如シ。
貝原篤信。……大和俗訓。

元禄十六年ノ大地震。

我レ初メ湯島ニ住ミシ比、元禄十六癸未ノ年

十一月廿二日ノ夜半過グル程ニ、地夥シク震ヒ、
始メテ目覺メヌレバ腰ノ物共取リテ起キ出ヅ
ルニ、此コ彼シコノ戸障子皆倒レヌ。妻子共ノ
卧シタル所ニ行キテ見ルニ皆皆起キ出デタリ。
屋ノ後ノ方ハ高キ岸ノ下ニ近ケレバ、皆皆引キ
具シテ東ノ大庭ニ出ヅ。地裂クルコトモコソ
アレトテ、倒レシ戸共出ダシ並ベテ其ノ上ニ居
ラシメ、聽新シキ衣ニ改メ、裏打チタル上下ノ上
ニ道服着テ「我」レハ殿ニ參ルナリ、召シ供ノ者ニ、
三人計リ來タレ、其ノ餘ハ家ニ留マレ。ト云ヒテ

馳セ出ヅ。道ニテ息切ルルコトモアラメト思ヒシカバ、家ハ小船ノ大キナル浪ニ動クガ如クナル内ニ入りテ藥器尋子出ダシテ、傍ニ置キツツ衣改メ着シ程ニ、彼ノ藥ノ事ヲバ打チ忘レテ馳セ出デシコソ恥ヅカシキコトニ覺ユレ。

カクテ馳スル程ニ、神田ノ明神ノ東門ノ下ニ及ビシ比ニ、地又夥シク震フ。ココ等ノ商人ノ家ハ皆皆打チ明ケテ、多クノ人ノ小路ニ集マリ居シガ、家ノ内ニ燈ノ見エシカバ、家倒レナバ火コソ出ヅベケレ、燈打チ消スベキ者ニコソ。ト云

ヒツツ走リテ行ク。昌平橋ノコナタニテ景衡（時ニ朝倉余三ト云ヒシ。）ノ我方ニ馳セ來ルニ行キ合ヒテ、跡ノ事ヨキニ計ラヒ給ヘト云ヒ棄テテ行ク。

橋ヲ渡リニ南ニ行キテ西ニ折レテ又南セントスル所ニ、馬ヲ立テテアル者ヲ月ノ光リニ見レバ、藤枝若狹守ナリ。是レハ地ノ裂ケテ水ノ湧キ出ヅレバ其ノ深サ廣サノ測リ難サニカクテアリシナルベシ。續ケヤ、者共ト云ヒテ、一丈餘リニナリテ流ルル水ノ上ヲ跳子越エシニ、供

ナル者共モ同ジク越エヌ。其ノ水越エシ時足ヲ濡ラシケレバ、草履ノ重クナリテ行キ難カリシカバ、改メ穿キテ馳スル程ニ、神田橋ノコナタニ至リヌレバ地又夥シク震フ。多クノ箸ヲ折ル如ク、又蚊ノ集マリ鳴ク如ク鳴ル音ノ聞コユルハ家ノ倒レテ人ノ叫フ聲ナルベシ。石垣ノ石走り、土崩レ、塵起コリテ空ヲ蔽フ。カクテハ橋モ落チヌト思ヒシニ、橋ト臺トノ間三四尺計リ崩レシカバ、跳リ越エテ門ヲ入リシニ、家家ノ腰板ノ離レテ大路ニ横タハレル、長キ帛ノ風ニ

翻リシガ如シ。

龍之口ニ至リテ遙カニ望ミシニ、藩邸ニ火起コレリ。其ノ光リノ高カラヌハ殿屋倒レテ火出デシヤト、イト覺束ナクテ、心ハ先ニ馳スレドモ、足ハ只一所ニアルヤウニ覺ユ。ココヨリ四五町ガ程行キシト思フ比ニ、馬ノ足音ノ後ノ方ニスルヲ顧ミレバ、藤枝ノ馳セ來タルナリ。我レココマデハ來タレド、行ク末ノ事計リ難ケレバ、若狹守殿トコソ見進ラスレ、アノ火ノ有様覺束ナク侍ル者カナト云ヒシカバ、サレバ候フ、來

タラセ給へ、馬上ニ候フハ御免シ蒙ラン。ト云ヒテ馳セ過グ。

驄日比谷ノ門ニ至ルニ、番屋倒レ、壓レテ死スル者ノ苦シゲナル聲スナリ。彼レコニ又馬ヨリ下リ立チテ居シ者ヲ見ルニ藤枝ナリ。是レハ櫻門ノ瓦ノ南北ノ檐ヨリ地ニ落チ重ナリテ山ノ如クニナリタレバ越エ難キニ由レルナリ。イザサセ給へ。ト云ヒテ、伴ヒテ其ノ上ヲ越エ過ギテ小門ヲ出デテ見レバ、藩邸ノ北ニアル長屋ノ倒レテ火出デシニテ、殿屋ニハ遙カニ隔タリ

タレバ胸開ケシ心地ス。藩邸ノ西ノ大門開ケテ遠侍ヒノ倒レシ見ユ。藤枝ココヨリ入ラントス。某ハ常ニ西ノ脇門ヨリ參リヌレバ、彼レコヨリ入り候ハシ。ト云ヒテ別カレヌ。

カクテ脇門ヨリ入りテ見ルニ、家家皆倒レ傾キタレバ、出デ立チテアル人ニ路梗ガリテ行クベカラズ。ソコヲ過ギテ常ニ參ル所ニ至リタレバ其ノ所モ倒レテ入ルベカラズ。藤枝又其ノ邊リニイミ居シヲ伴ヒテ、御納戸ノ口ト云フ所ヨリ入りタリ。此コ彼レコノ天井落チ掛カ

リシ所所ヲ過ギテ我レハ常ニ祇候スル所ニ參
リシニ、今ノ越前守詮房朝臣ノコナタノ方ニ來
タルニ行キ合ヒテ、御恙モアラセ給ハヌコトヲ
聞キ、**カ**カル時ニ候ヘバ推參シ候フ。ト云ヒ棄テ
テ、常ノ御座所ニ參ルニ、其ノ庇ノ内ニ東ノ屋ノ
倒レ掛カリシアリ。近習ノ人人ハ南ノ庭上ニ
立チ居タリ。**上**ニハアナタノ庭ニオハシマス
ナリト云フ。戸田、小出、井上ナドノオトナタチ
モココニ入り來タル時ハ庭上ニ立チヌレバ、**五**
十嵐ト云ヒシ人ニ云ヒ語ラヒテ御座ニ敷カレ

シ疊ミヲ十帖バカリ庭上ニ卸シテ皆皆ヲ其ノ
上ニ坐セシム。地震フコト頻ナレバ坐セシ後
ノ池ノ岸崩レ崩レテ平カナル池モ狭クナレリ。
カカリシ程ニ酒井左衛門尉忠真仰セヲ蒙レ
リトテ入り來タリテ火ヲ防グ。火熾リナラン
ニハ御座ヲ移サルベシナド聞コユルニ、御袴計
リニ御道服メサレテ常ノ御所ノ南面ニ出デ立
タセ給ヒ、某ガ侍フヲ御覽ジテ召ス。御椽ニ參
リシカバ地震ノ事具ニ問ハセ給ヒテ後ニ奥ニ
入ラセ給ヒヌ。

夜モ明ケヌベキ比ニ至リテオホヤケニ參リ
給ハント聞コユ。某長門守ノ耳ニ附キテ地震
フコト猶頻ナリ、參ラセ給ハンコト如何ニヤ。ト
云ヒシニ我レモサコソハ思ヘド止メ申スベキ
事ニアラズ。ト云フ程ニ、出デ立タセ給ヒタリ。
カクテカノ火出デシ所ニ往キテ見ルニ、倒レ
シ家ニ壓サレテ死セシ者共ヲ引キ出ダシタル、
此コ彼シコニアリ。井泉悉盡キテ水無ケレバ、
火消スベキヤウモアラズ。

力カリシ程ニ今ノ隱岐守藤詮之ノ我レヲ誘

ヒテ兄ノ詮房朝臣ノ家ノ庭ニ入リテ膳ヲ進ム。
ヨベ侍醫ノ坂本ト云ヒシ人ノ庭上ニ來タリテ
我レヲ引キノケテ袖ヨリ物出ダシテ與フ、湯ニ
浸シタル飯ヲ茶碗ニ盛リシナリキ。其レヲ食
ヒシ後程經シカバ飯打チ食ヒ酒打チ飲ミテ出
ヅ。今ノ市正藤正直ノ家ノ前ヲ過グルニ、呼ビ
入レテ茶ヲ與ヘタリ。

力カリシ程ニ歸ラセ給フト聞キテ入ラセ給
フベキ所ニ行キ向カヒテ迎ヘ進ラス。其レヨ
リオトナタチト我レト四人打チ連レテ、イヅコ

ニヤアリケン、細キ渡リ殿ノアル所ヲ經テ常ノ御座ノ方へ行クニ、作り合ハセノ所ニ至ル。人ハ草履ヲ袖ニシタレド、戸田ハ其ノ用意ナシト見ユ。我レハカカル事コソアレト思ヒテ、始メ庭上ニアリシ時ソコ等ノ草履ヲ左右ノ袖ニシタレバ取り出デテ與フ。力カリシ程ニ再前ノ所ニ出デサセ給ヒ、某ヲ召シテ我レ幼キ時ニ上野ノ花見ル者共ノ群レ居シヲ見シニ似ツルカナ。ト仰セラレテ笑ハセ給ヒヌ。兎角セシ程ニ火モ打チ消シヌ。

日既ニ午ノ半ニモナリヌベキ比、又出デサセ給ヒテ某ヲ召ス。參リシカバ、妻子共ノ事其ノ後ノ事聞コエシヤ。ト仰セアリ。ヨベ參リシ後ニココニノミ侍ヒテ、其レ等ノ事モ承ラズ。ト申ス。我レ谷中ノ別業ニ行ク時二人ノ教ヘタリシヲ思フニ、居所ハ高キ岸ノ下ニアリシトコソ覺ユレ。ト仰セラル。サン候フ。ト申ス。イトイト覺東ナキコトナリ、カクテハ地震フコト數日ヲモ經メ、震ヒシ初メノ如クナランニハ相構ヘテ來ルベカラズ、疾ク疾ク家ニ歸ルベシ。ト仰セ

下サレシカバ、罷り出デテ召シ供ノ者ニ尋子逢ヒテ「ヨベノ儘ニ侍ヒシニヤ。」ト問フ。「今朝疾ク家ニ残セシ者共ノ來タリ代ハリヌレバ家ニ歸リテ物喰ヒテ又參レリ。」ト云フ。是レニ由リテ妻子ノ事故ナカリシコトヲモ知リヌ。心靜カニ家ニ歸リヌレバ未ノ初メニハ過ギヌ。

新井白石……折焚柴記。

世界一周ノ話シ。第六。

余又一日けんゑんとんノ博物館ニ行キケリ。

ろんどん古城ハ府ノ東部ニアリ、けんゑんとん博物館ハ其ノ西部ニアルナリ。而シテ西部ニハ廣大ナル公園多シ。いうすどんヨリ數町西ニリゼンと公園ト稱スルアリ縦横各十町許リアルベシ。花卉樹木ヲ植エタレバ春夏ノ際杖ヲ曳ク者多シ。園内ニ動物園アリ寒帶熱帶諸國ノ異獸珍禽ヲ集メタリ。又植物園アリ是レ又奇木異草ヲ集メタリ。此ノ公園ノ西南ニ又大公園アリはいご。はあくト云フ。余ハ此ノ公園ノ南邊ニ沿ヒテ行クコト十餘町ニシテけん

あんとんニ至ル。ココニ博物館多シ、美術品博物館、生物博物館、印度博物館、理科博物館等ナリ。蓋此ノ地元萬國大博覽會ノ在リレ所ナレバ印度博物館、理科博物館等ハ其ノ建テ物ヲ用ヒタルナリ。故ニ是レ等ノ建テ物ハ甚醜シ。生物博物館ハ新築ニシテ壯麗ヲ極ム。

是レ等ノ博物館ノ後、即はいどは、あくノ南邊ニあるべると公ノ記念碑アリ。是レハ今ノ英國女王ビクトリア陛下が其ノ夫タリレあるべると公ノ爲ニ建テタル者ナリ。女王ハ今ヨリ

五十年前ニ王位ニ即キ、今年六十九歳ナリ。王位ニ即キテ後あるべると公ヲ迎ヘテ夫ト爲セシモ王位ハ自占メ居タリ、公崩ジテ後猶王位ヲ保ツコト故ノ如シ。皇子、皇女多ク、太子ハ既ニ四十七歳ナリ。政ヲ施スコトハ大抵皆宰相ノ意見ニ任セ、又法ヲ立テ税ヲ課スルコトハ國會議員ノ評議ニ任セタレバ女王ハ只其決議ヲ認可スルノミナリ。當時宰相タル人ハさうるずベリ侯ナレド、是レマデ屢宰相トナリテ威望重キ人ハぐらつどすどん氏ナリ。

余ハろんどんニ逗留スルコト殆三週間ニシテ、其ノ間ニ屢市外ノ諸名所ニ遊ビキ。ろんどんノ南數里ニ水晶宮ト云フ所アリ、半ハ博物館ニシテ半ハ遊戯場ナリ。又ろんどんノ西ニきうノ花園ト云フ廣キ植物園アリ。又其ノ西ハ里餘リニゐんづる城トテ女王ノ平常住マハルル宮殿アリ、城内拜觀ヲ許サル。ろんどんノ北ニ十里許リニけんぶりつぢト云フ所アリ、ココニ天下ニ名高キ大學校アリ。余ハ是レ等ノ所所ヲ回覽シ畢ヘテふらんすノぱりニ向カヒ出立

ツセリ。

ちやりんくろすノ停車場ニテ汽車ニ乗り、てにむす河ヲ渡リ南ろんどんヲ過ギ、司天臺ニテ名高キぐりたつち、寺院ニテ名高キかんたあべりヲ通りテ遂ニ南海岸ナル**だば**、あ府ニ達ス。車ハ直ニ海ニ築キ出ダレタル波止場ニ至リテ渡シ船ニ接續ス。故ニ車ヲ下リテ直ニ船ニ移リ、十里ノ海峡ヲ渡ル。**だば**、あ近傍ノ海岸ハ白堊崖ヲ爲シ、海ヨリ遠ク之ヲ望メバ沿海白壁ヲ回ラセルガ如シ。二時計リニシテ海峡ヲ渡リ

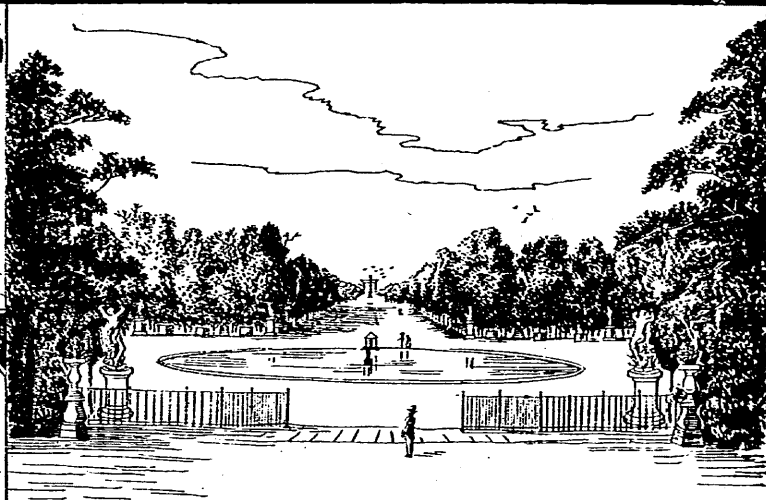
テふらんすノかれいニ着キ直ニ復汽車ニ乗り
テ發ス。

英國ヨリ佛國ニ渡レバ風土ノ差、世態ノ異ア
ルヲ覺ユ。佛國ノ汽車ハ英國ノニ比スレバ醜
シ、佛國ノ市邑ハ英國ノニ比スレバ貧シク見ユ、
佛國ノ野景ハ英國ノニ比スレバ荒レタリ。

午前十時ゝんどんヲ發スレバ其ノ夜八時頃
ぱりニ着ス。ぱりハ世界第一ノ華麗ナル都府
ナリ。其ノ最賑シキ街ハいたりやん大路、かぶ
あん大路等ニシテ酒樓茶店軒ヲ並べ、馬車道ノ

兩側ニ樹木ヲ植エ家家ノ建築皆一樣ニセリ。
我が東京ナル銀坐ノ通りハ此ノ街ニ倣ヒテ造
リシ者ナルベケレド及バザルコト遠シ。かぶ
あん大路ノ北側ニねぺらト稱スル戲場アリ、廣
大ニシテ且華美ナル建築ナリ。かぶあん街ヲ
西ニ行ケバ遂ニまでれん寺院ニ到ル、ココヨリ
左折スレバぷらあすどらあんところどニ至ル廣
キ平地ニシテ二個ノ大噴泉アリ、高塔アリ、景色
甚壯快ナリ。此ノ所ヨリ西ニ續キテ名高キあ
やんぜりぜアリ。あやんぜりぜハ公園ノ如ク

多ク樹木ヲ植エタル中央ニ馬車道アリテ貴族
富豪馬車ヲ驅リテ遊ブ所ナリ。 **あ**やんぜりぜ
ノ西端ニ凱旋門アリ、是レヨリ南數町ニシテど
ろかでろ宮アリ、博覽會ノ跡ナリ、外見甚美ナル
建テ物ナリ、宮ノ前後ニ噴泉、瀑布ヲ装ヒタリ。
殿上ヨリ遙カニ見渡セバ、ぱり府大半眸中ニ在
リ。 **宮**ノ前ニ流ルル河ヲ**せ**ん河ト云フ、之ニ
沿ヒテ東スレバ復ふらあすどらこんとるどニ
達ス。河ノ彼ナタニハ諸官省、國會議事堂アリ
何レモ大厦ナリ。 **河**ノ兩岸ハ石垣ヲ築キ、架ス



ルニ鐵橋、石橋ヲ以テス。
ぷらあすどらこんと
るどノ東ハついでに園
ナリ。 **園**ニ續キテつ
れり王宮アリ、其ノ西ニ
るうぶる宮アリ、何レモ
宏大ナル建テ物ナリ。
今ハ王宮ノ一部分ヲ官
省トナシ、又一部分ヲ博
物館トナセリ。 **館**内畫

幅古物多シ。ふらんすハ昔王國ナリシモ今ハ
共和國トナリ人民中ヨリ人才ヲ選ビテ大統領
トナスコト**亞**米利加合衆國ノ如シ。**余**はりニ
留マルコト二週間計リ見物セシ所甚多シト雖、
今ハ一一語ルコト能ハズ。

余はりヲ去リ汽車ニテまるせいるニ向カヒ、
途中リねん府ニ止マリシガ、此ノ都府ハ佛國第
二ノ都會ナルベシ。**地**ろねん河ノ畔ニアリ、絹
布ノ產出多キヲ以テ名アリ。是レヨリ**ろ**ねん
河ニ沿ヒテ南シまるせいる港ニ着ス、まるせい

るハ地中海ニ臨メル港ニシテ地中海濱ノ諸國
及ビ東洋トノ交通繁ク、船舶ノ輻湊スルコト多
キ港ナリ。

大江親兵衛猛虎ヲ撃ツ。

馬琴ノ小説ニ云ハク日本ニハ虎ヲ
生ゼザルガ、此ノ時不意ノ原因ニ由リ
テ一ノ猛虎ヲ走ラセ、其ノ虎白河山ニ
入リテ往來ノ人ヲ悩マスト云。

親兵衛ハ此ノ夜初更ノ比ホヒニ白河山ノ麓
ニ來ツ、腰手綱ニテ馬ノ足搔キニ任セテ聽打チ
登ル。白河ノ里ヲ稍過ギテカ行キカク行キ路

ナキ路ノツヅラヲリナル嶮岨ヲ厭ハズ登リ行
ク程ニ、冬ノ夜次第ニ更ケ行キテ萬籟聲ナク簾
簾ト流ルル溪水ノ音スルノミ。凸凹タル沙石
茸茸タル荊棘皆是レ馬蹄ヲ惱マシテ路去リ敢
ヌ處多カリ。木ノ間ヲ漏ル星ノ光リハ時ナラ
ヌ螢ニアラズ、面ヲ拂フ夜ノ山風ハ銳キコト刃
ニモ勝ルベシ。或ハ木ノ枝交ジハル處鞍ニ伏
サザレバ、笠ヲ棄ハレントシ、或ハ落チ葉ノ積ム
處行クニ音アリテ水ヲ渡ルニ似タリ。既ニ丑
ノ頃ニ至リテハ、月ハ山ノ端ヲ離レテ霜ノ厚キ

ヲ覺ユ、影ハ谿谷ニ隈アリテ夜ノ深キヲ知ル。
視上グレバ青壁千仞ニシテ白雲帽ヲナレ、視下
セハ深谷幽靜ニシテ葛藤棧ヲナス。山又山ヲ
巡リ來ニケル親兵衛ハ暫シ馬ヲ駐メテ邊リヲ
見廻シ、我レ夜モスガラ山巡リシテ既ニ曉
ニ及ベルニ今マデ虎ニ遇ハザルハ命運茲ニ薄
クシテ故郷へ還ル日ナカラシカ。サルニテモ
我が兩館ノ威福ヲ戴キ姫神ノ擁護ヲ仰グ我が
忠信如何ゾ此ノ儘ニテ已ムベキヤト獨ゴチツ
ツ憶ハズモ嗟嘆ニ堪ヘ子バ惆然タリ。

カカル處ニ、風カアラヌカ、向カヒニムラ立ツ
枯レ草ノ延ベ偃ス如クサヤサヤト、戦グヲ見テ
ヤ駭キケン、馬ハ俄ニ嘶キ狂フヲ親兵衛確ト乗
リ駐メテ、物コソアラメト箠ナル獵矢二筋抽キ
取リツツ、左手ニ半弓サシ挟ミテ、眼ヲ配ル馬上
ノ身構ヘ、ソコトモ分カヌ、彼ノ時速シ、猛虎ノ一
聲凄シク峯ヲ振ハシ谷ニ響キテ、突然トレテ走
リ出デ來ル獸ハ則別物ナラズ、問ハデモシルキ
彼ノ暴虎牙ヲ鳴ラシ爪ヲ張り、眼ノ光リ人ヲ射
テ面モ振ラズ親兵衛ガ乘リタル馬ノ後脚ヲ噬

ミ仆サント跳リ掛カルヲ、親兵衛早ク馬ヲ飛バ
シテ縱横無碍ニ馳セ回ラスル馬上ノ自由云ヘ
バサラナリ、馬モ名ニ負フ走帆ノ追ヒ風ヲ得タ
ルニ異ナラズ、虎ノ來ヌルヲ未然ニ知リテ駭キ
怕レシ初メニ似ズ進退奔走主ノマニマニ、少シ
モ撓ミアルコトナク、卧ス石多カル岨ノ高低、葛
繁カル松柏ニモ足ヲ駐メズ跌カ子バ、虎ハ彌イ
ラダチテ、哮リテ只管駭ケントスレドモ、勢ヒ便
宜ヲ得ザリケリ。……

カクテ虎ハ、勢ヒ撓ミテ近ヅキ得ズ。ソコ等

ニ古リタル赤松ノ周リ一抱ヘニ餘レルアリ、則
此ノ樹ニ身ヲ寄セテ背ヲ高クシ頭ヲ垂レテ暫
シ便宜ヲ待ツ程ニ、親兵衛ハ相距ルコト既ニシ
テ七八間、早クモ馬ヲ騎リ居エテ弓ニ箭刺フ程
シモアラセズ、虎ハ忽頭ヲ擡ゲテ走り掛カラン
トシヌル處ヲヨツピキ固メテ、ひやうト射ル。
善射ノ弓勢矢ツボ違ハズ、虎ハ左ノ眼ヲ射ラレ
シ鏃餘リテ赤松ノ幹ヘ四五寸射コメシカバ、虎
ハ一聲高ク哮リテ其ノ箭ヲ抜カントモガク處
ヲ、親兵衛スカサズ二ノ箭ヲ發シテ又右ノ眼ヲ

樹ノ幹セメテゾ串キケル。カクテゾ虎ハ兩眼
共ニ射ラレテ其ノ窮所ニ堪ヘ子バ、立ち處ニ衰
ヘ果テテ纔カニ其ノ尾ヲ動カスノミ。親兵衛
之ヲ見テ得タリト馬ヨリ下リ立ちテ走り近ヅ
キ、右ノ拳ヲ握リ固メテ虎ノ眉間ヲ三ツ四ツは
たト搏チシカバ、……虎ハ骨碎ケ皮陷リテナ
ヨナヨトシテ斃レケリ。

瀧澤馬琴。……八犬傳。節略。

天保饑饉ノ諭達。

何程凶年ニテモ國中ノ米穀ニテ我レ等ノ食物ニハ差シ支ヘ是レナク、又粥ヲ用ヒ候フトモ、其ノ餘リタル米國中ノ潤ヒニモナラズ候ヘドモ、重役ヨリ始メ國中ノ人吾レ等ガ心ヲ推察致シ人人心次第ニ米穀ヲ餘シ候ハバ、國中ニ饑饉ノ民ハアルマジキ道理ナリ。譬ヘバ、ココニ兄弟十人アリ、一人ハ富貴ニテ珍味美食ヲ用ヒ、二人ハ相應ノ勝手ニテ十分ニ飲食シ、二人ハ平常

ノ食ヲ用フルニ、其ノ餘ノ五人ハ饑エテ死ナントスル時、初メノ五人各ノ食ヲ分カチ平常ヨリ少シク粗食ヲ用ヒナバ十人ノ命ハ全カルベシ。吾レ等愚ナル身ニテモ國中士民ノ父母ナレバ國中ノ士民互ニ兄弟同様ニ思ヒ、貧レキ者ハ愈儉約シテ富メル者ノ救ヒヲ受ケザル様ニ心掛ケ、富メル者ハ我レ獨富マズ、一粒ヅツニテモ餘シテ、世ノ中ノ人ノ潤ヒニナル様心掛ケ候ハバ、國中ニ饑民ハ是レアルマジク候フ。

徳川齊昭。

世界一周ノ話。第七。

まるせいるニテ佛國郵船會社ノ船ニ乘リ組
 ミ是レヨリ歸路ニ就ケリ。佛國南海岸ノ山山
 ハ岩石多クシテ樹木少シ。地中海ハ浪荒ラシ
 ト兼子テ聞キ居タルガまるせいるヲ出デテヨ
 リ一晝夜ノ程ハ船ノ動搖スルコト甚シカリキ。
 二晝夜計リニシテ行クテノ方ニ噴火山ヲ望メ
 リ、近ヅキテ見レバ是レナンすところんぼりノ火
 山ナリケル。是レニ並ヒテリ。ぱり諸島ノ火山

モ見エ、遙カニいたりや、あゑりノ陸モ見エケリ。
 陸ニ見エシ大火山ハあゑりノ山とな山ナリ。
 船ハ次第ニ陸ニ近ヅキテ遂ニいたりヤトあゑ
 り島ノ間ナルめ、つゑなノ海峡ヲ通りヌ。此ノ
 海峡ハ幅狭ク兩岸ノ都邑ヲ見渡シテ風景甚佳
 シ。船此ノ海峡ヲ過ギテ後ハ又陸ヲ見ザルコ
 ト三晝夜計リニシテはあゑりノあれきさんど
 りや港ニ着キヌ。

此ノ港ハ亞非利加ノ北海岸ニアリテないる
 ノ河口ノ極西ニ位ス。氣候温暖ニシテ、頃ハ十

二月ノ半ナリシモ我が國春夏ノ間ノ氣候ナリ
キ。商業盛リニシテ船舶輻湊シ地中海東部ニ
在リテハ第一ノ港ナラン。昔まけどにや王あ
れきさんどる遠征シテ此ノ地ニ至リ、始メテ此
ノ港ヲ開ケリト云フ。

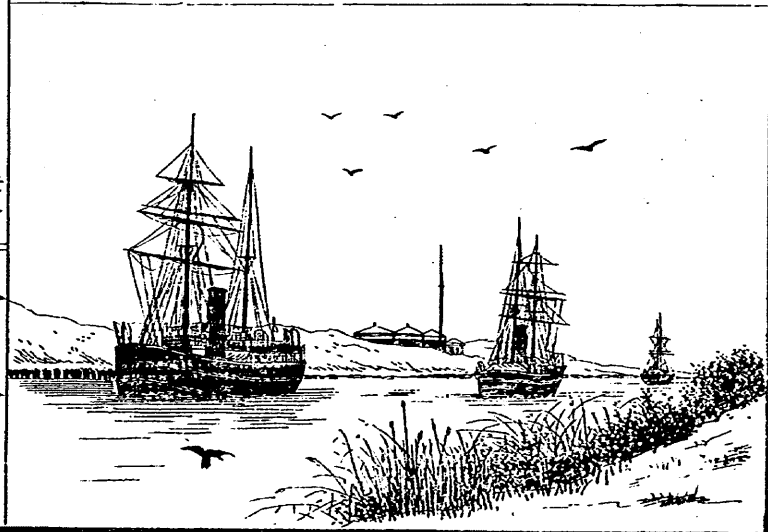
余ハ上陸シ馬車ヲ驅リテ市中ヲ見物シキ。
土人ハ歐米人ニ似タレドモ色黒クシテ肉瘠セ
タリ。風俗大ニ趣キヲ異ニシ、衣ハ長クシテ法
衣ノ如ク、頭ニハ布ヲ纏ヒ付ケ又ハ赤キとるこ
帽ヲ被リ、而シテ足ハ跣足ナリ。女ハ覆面シテ



目ヲ出ダスノミ。家ハ
石造ナレドモ矮小ニシ
テ汚穢ナリ、市街ハ狭ケ
レドモ石ヲ敷キタリ。
歐洲人多クココニ來タ
リ住ムガ故ニ歐洲風ノ
家屋モ寡カラズ。
郊外ニ出ヅレバ沙丘
斷續シ、椰子所所ニ叢ヲ
ナシ駱駝、牛等ヲ牽キテ

行ク者アリ、是レ眞ニ亞非利加ノ景色ナリ。抑
 以テおとハ世界第一ノ古國ニシテ數千年以前
 ノ古物多ク存シ、史學上甚面白キ國ナリ。あれ
 きさんどりやヨリ内地ニ入ルコト凡五十里ニ
 シテかいろ府アリ、是レ以テおとノ首府ナリ。
 此ノ都府ニ近ク有名ナル三角塔三基アリ。是
 レ等ハ何レモ數千年以前ノ國王ノ墳墓ナリ。
 此ノ外ニ石造ノ遺物猶多シ。余ハあれきさん
 どりや港ニ上陸セシノミニテ直ニ船ニ歸リケ
 レバ是レ等ノ遺物ヲ見ルコト能ハザリキ。

あれきさんどりやヲ
 出デテ東ニ進ミ一晝夜
 計リニシテぼるとさい
 どニ達セリ。ココハす
 ゑず運河ノ北端ニシテ、
 此ノ港ハ運河開ケテ後
 新タニ立チタル者ナレ
 バ今猶小市街ニ過ギズ
 ト雖、年ヲ逐ヒテ必繁盛
 ニ趣クナルベシ。



スルズ運河ハスルズノ地峽ヲ切り開キテ地中海ト紅海トヲ續ケテ船舶ノ往來ヲ便ニセル者ナリ。昔歐羅巴ヨリ印度支那日本ニ來タルニハ亞非利加ノ南端ヲ回航シケレハ、二、三箇月ヲ費ヤサデハ一航海ヲナシ難カリシモ、此ノ運河開ケテヨリハ一箇月以内ニシテ印度ニ達シ一箇月半ニテ日本ニ達スルコトヲ得ルニ至レリ。此ノ運河ノ開通ヲ企テシ人ハ佛蘭西ノルツセ、つぷト云フ人ナリ。今ヨリ凡十九年以前ニ竣工シ、爾來船舶ノ往來スル者年年増加セリ。

運河ハ長サ四十里許リニシテ幅五十間許リナリ。故ニ大船ハ二艘相並ブベカラズ。然レドモ運河ハ數多ノ湖水ヲ通ジ又所所ニ船舶ノ待ち合ヒ所ヲ造リタレバ船ノ行キ合ヒテ衝突スル憂ヘハナキナリ。

運河ノ幅甚狹キガ故ニ甲板ニ上リテ兩岸ヲ望メバ殆身ノ陸ニアルガ如ク思ハル。陸ハ一面ノ沙原ニシテ地低キガ故ニ水ノ溜マレル所多シ。樹木ハ固ヨリ一モアルコトナシ。遠ク望メバ水波ノ動搖スルガ如ク見ユル者アリ是

レナン沙漠ニ多シト云フ、逃げ水ナルベキ。一
晝夜ニシテ運河ヲ過ギ、其ノ南端ナルすゑず港
ニ立チ寄り又發シテ紅海ニ浮ベリ。すゑず運
河及ビ紅海ハ暑氣烈シキ所ナリト聞キツレド
今ハ冬ノ最中ナリケレバ幸ニサマデニアラズ、
寒暖計ハ八十度ヲ過ギザリキ。

紅海ノ東岸ハあらびや國ニシテ西岸ハ亞非
利加洲ナリ。東岸ニ志ない山其ノ他ノ山山雲
烟ノ間ニ隱見ス。山皆赭色ヲ帶ビテ草木ナシ。
三晝夜ニシテあらびやノ南端ヲ回りあでん港

ニ着キヌ。

あでんハあらびやノ西南ノ海岸ニアル港ニ
シテ東西ニ往來スル船舶ノ石炭供給所タリ。
港ハ突兀タル岩丘ニ沿ヒテ開キタル者ナリ。
内地ト通商アリ、駱駝ヲ以テ荷物ヲ運搬ス。土
人ハあらびや人ニシテ色黒ク多クハ裸體ナル
カ或ハ白布ノ單衣ヲ纏フノミ、誠ニ野蠻ノ醜類
ナリ。

あでんヲ出デテ再海上ニ乗り出ダセバあら
びや海ナリ。六日ニシテせいろん島ノあろん

ぼ港ニ着キヌ。せいろんハ印度ノ南ニアル大ナル島ナリ、今ハ英國ノ領地タリ。おろんぼハ其ノ首府ナリ、余ハ上陸シテ市中ヲ見シガ、歐洲人多ク入り來タレルガ故ニ歐洲風ノ家屋アリ、土人ノ家屋ハ矮小ニシテ其ノ建築法ハ我が國ノ家屋ニ似タル所アレドモ汚穢ナルコト甚シ。余ハ此ノ地ニテ始メテ我が國ニ近ヅキレコトヲ覺エシハ噲ニ家屋ノ相似タルノミナラズ、又佛教ノ盛リニ行ハレテ佛寺ノアルガ故ナリ。此ノ地ハ熱國ニシテ且地味豐饒ナリト見エ椰

子ノ外珍異ナル樹木暢茂シ、さんふらんあすこニ上陸セシ以來未曾見ザル景色ナリキ。

ころんぼヲ出デテ印度洋ヲ航スルコト五晝夜ニシテ、行クテニ草木青青タル島嶼ヲ望ミヌ。アレハ何處ト問ヘバすまとら島ノ北ナル島嶼ナリト云フ。漸近ヅクニ隨ヒすまとら島モ次第ニ見エヌ。船ハ小島ノ間ヲ過ギ行キケレバ望遠鏡ヲ以テ望ミ見ルニ椰子其ノ他ノ樹木一面ニ生ヒ茂レリ。ココヨリハすまとら島ト亞細亞ノまれい半島ノ間ナルまらっつか海峽ナリ。

すまどらニハ雲際ニ聳ユル高山多シ。まらつ
か海峡ニ入りテヨリ一晝夜計リニシテ志んが
ほりるノ港ニ着キヌ。

志んがほりるニ近キ處島嶼多シ水面穩カニ
シテ樹木ノ水中ニ生ヒタル者アリ。志んがほ
りるモ島ニ在リテ、亞細亞ノ南端ナルまれい半
島ト一葦水ヲ隔テタリ。志んがほりるハ常ニ
暑氣甚シク其ノ時ハ冬ナリシモ猶八十三度ノ
熱サナリシガ幸ニ夕方ヨリ雨降リケレバ涼シ
カリキ。土人ハまれい人ニシテ白布ノ筒袖襦



袷ニ腰巻キノ
如キ物ヲ着ケ
タリ。膚褐色
ニシテ容貌我
ガ國人ニ似タ
ル所アリ。然
レドモ市中支
那人多クシテ
或ハ商業ニ從
事シ、或ハ賤業

ニ使役セラル。支那人ハ亞米利加ニモ渡リ、あ
うすどらりやニモ渡リテカ役スル者多シ、其ノ
未多ク至ラザル所ハ唯歐羅巴ノミナリ。

えんがぼりるハ現今英國ノ領分トナリ亞細
亞南方ノ要港タリ。是レヨリ益盛大ニ赴クナ
ラン。

えんがぼりるヲ出デテ東北ニ向カヒテ進ミ
行クニ南ニ方リテ數多ノ島嶼見エタリ。漸
えんがぼりるノ近海ヲ離レテ支那海ニ出ヅレバ
波荒ラク船揺ラレテ大ニ苦シミキ。すゑずヨ

リえんがぼりるマデノ航海ハ甚穩カナリシニ
漸我が國ニ近寄リテ此ノ怒濤ニ遇ヒケレバ人
皆一層ノ不快ヲ覺エケリ。然レドモえんがぼ
りるヲ出デテヨリ四晝夜ニシテ無事ニかんぼ
ぢやノ海岸ニ着キ、めこん河ヲ溯リテさいごん
府ニ至リキ。此ノ地ハ現今ふらんすノ領分ニ
シテ安南、東京等ヲモ併セ領ス。

此ノ地ニモ支那人ノ商業ニ從事スル者多シ。
土人ハ支那人ト同種ナルベシト雖、丈低ク肉瘦
セ性質懶惰ナリ。

さいごんヲ發シめこん河ヲ下リテ再支那海
ニ出デ東航スルコト四晝夜計リニシテ香港ニ
着キヌ。香港ハ支那廣東州ニ近キ一小島ナリ、
地支那ニ屬スレドモ今ハ英領タリ。此ノ港ハ
我が國ノ長崎ニ似テ市街ハ皆山ノ半腹ニアレ
バ、街路坂多シ。外國人モ多ク入り込ミタレド
モ支那人ノ本國ナレバ支那人ニシテ盛大ナル
商業ヲナス者甚多シト云フ。

人力車ハ我が國ニテ創製シタル者ナルガ次
第ニ外國ニ傳ハリテ今ハ支那ノ諸港、さいごん、

えんがぼりる等ニテモ多ク用ヒラル。香港ハ
坂路多キ所ナレバ人力車ノ外ニ肩輿ト云フ者
ヲ用フ。是レハ二本ノ長キ棒ノ中央ニ椅子ノ
如キ物ヲ支ヘ、人ヲ之ニ載セ棒ノ前後兩端ヲ二
人ニテ舁グナリ。余之ニ乘リテ市街ノ後ノ山
ニ登リシガ山巔ノ眺望甚佳カリキ。

香港ヲ出デテ支那ノ南ノ海岸ニ沿ヒ更ニ東
ノ海岸ニ沿ヒ臺灣ノ海峡ヲ過ギ、凡五晝夜ニシ
テ揚子江ノ河口ニ達シヌ。是レヨリ江ヲ溯リ
テ吳淞ト云フ所ニ至リココニテ小汽船ニ移リ

猶上リ行クコトニ、三里ニシテ上海ニ着キヌ。
揚子江ハ廣大ナル流レニシテ船中流ニアル時
ハ兩岸ヲ望ミテ明カニ見ルコト能ハズ。水濁
リテ黄色ナリ。上海近傍ハ總ベテ平地ニシテ
山ヲ見ズ。

上海ハ支那東部ノ大市ニシテ商業ノ盛リナ
ルコト香港ニ勝ルベシ。英佛米等ノ諸國各市
街ノ地ヲ分カチ領シ其ノ景狀全ク歐洲ノ都府
ノ如シ。支那人ハ別ニ城内ト稱スル所ニ住ム。
城郭ハ石ヲ以テ築キ諸方ニ門アリ城内街路甚

狹クシテ馬車ハ固ヨリ通ゼズ人モ二人相並ビ
テ行キ難カラシ。家屋街路共ニ汚穢ニシテ臭
氣鼻ヲ撲チ殆人ヲシテ嘔吐セシム。然レドモ
城内ニハ種種ノ商店アリテ其ノ賣ル所ノ物品
我が國ニ見ル所ノ者ト同ジキモアリ、相似タル
モアルガ故ニ余ハ諸商店ニ立テ寄りタリ。

船上海ニ碇泊スルコト一晝夜ニシテ揚子江
ヲ下リ東海ニ出デテ我が日本ニ向カヒヌ。暮
るせいるヲ出デテヨリ四十餘日此コ彼レコニ
寄港シテ心モ漸倦ミタルニ、此ノ次ギコソハ我

ガ國ナレト思ヘバ喜バシサ限リナカリキ。上
海ヨリ二晝夜計リニシテ九州ノ北ニ達シ雲霧
ノ間ニ豐筑ノ山山見エタリ。既ニシテ九州ノ
陸ニ近ヅキ島嶼モ數多船ノ前後ニ現レ白帆揚
ゲタル舟サヘ遠近ニ見エケリ。船ハ下ノ關ヲ
過ギテ内海ニ入り其レヨリ一晝夜ニシテ神戸
ニ碇泊セリ。香港ヲ出デテヨリ氣候次第ニ寒
冷ニ赴キシガ船ノ内海ニ入りシ時四國ノ山山
ヲ望ミシニ皆白雪ヲ戴キタリキ。方ニ是レ一
月半ノ事ナレバサモアルベキコトニコソ。

神戸ニテ上陸シ諏訪山ニ遊ビテ翌日復船ニ
歸リ是レヨリ一晝夜ニシテ横濱ニ着キヌ。此
ノ行前後殆六箇月ニシテ世界ヲ一周セリ。其
ノ中三箇月餘リハ船ニ在リテ他ノ三箇月許リ
ハ歐米ノ都府ニ逗留セシナリ。百聞一見ニ如
カズ旅行シテ利益ヲ得ルコト尠カラザルナリ。

旅行ノ樂シム。

旅行シテ他郷ニ遊ビ名勝ノ地山水ノ麗シキ
佳境ニ臨メバ良心ヲ感じ起コシ鄙吝ヲ洗ヒ濯

グ助ケトナレバ、是レモ亦我が徳ヲ進メ、知ヲ廣ムルヨスガナルベシ。又云ヒ知ヲ異境ニ往キテ、見馴レヌ山川ノ有様ヲ見テ目ヲ遊バシメ、其ノ里人ニ逢ヒテ其ノ所ノ風土ヲ問ヒ、或ハ奥マリタル山フトコロニ岩根踏ミテ尋子入リナドセバ、素ヨリ山水ノ癖アリテ、**青**山夢ニ入ルコト頻ナル、人ハ心ヲ留メテ歸ルコトヲ忘レヌベシ。或ハ海ベタ、山遠キ眼界廣キ眺メハ萬戸侯ノ富ミニモ勝レリ。又其ノ里ニ生ヒ出デタル名産ノ異ナル品ヲ見テ、其ノ味ヒヲ試ミルモ最

珍シク、心慰ムワザナリ。

總ベテ勝地ニ遊ビテ見聞セシ事、只一時ノ耳目ヲ悦バシムルノミナラズ、幾年經ヌレド其ノ時見聞セシ有様老ノ後マデ折り折り思ヒ出デラレテ、恰其ノ時見聞セシ思ヒヲナシテ樂シムベシ。ココヲ以テ世ニ目出タキ事ヲ思ヒデト云フモ宜ナル哉。

貝原篤信……、樂訓。

館小六夜箱根ヲ踰ユ。

俠客傳ニ云ハク、脇屋少將義隆底倉ノ温泉場ニ於テ藤白隼人ニ討タル其

澤ノ子小六丸野上史著演ニ養ハレテ藤
ヲ聞知レテト九年筆人ノ底倉ニ遊ブ
ニ向カフ途ニ舊知目ト郎ニ過ヒテ
詳ニ敵ノ動靜ヲ知リ又其ノ館舎ノ底倉
ニ至リ遂ニ父ノ讐ヲ復ス。伴ヒテ底倉

小六ハ見ツツウナヅキテ、……、

イザ行クベシト身ヲ起コセバ、

目四郎ハ急ガハレク

繪圖ヲ疊ミテフトコロヘ

納ムル程ニ、山風ニ

吹カレテ滅ユル蠟燭ヲ

打チ棄テテ、俱ニたつカ弓

分ケいる山ハ、谷川ニ

岩堰ク水ノ滔滔ト

音凄マジキ夏木立チ、

箱根ウツギハ花散リ果テテ、

闇ヲ照ラサン雪モナキ

五月ノ節ノ頃ナレバ、

降りミ降ラズミサミダレノ

霽レントシテハ又曇ル。

峰カ、麓カ、杜鵑、

我^レ越エ行ケバ、伊豆ノ海ヤ
澳ノ小島ハ見エ子ドモ、
サスガニ深キりみノ思
仰ゲバ高キ養ヒノ
親ニモ返ス劍^{ツルギ}太刀^{タチ}
身ヲ捨テテコソ武士^{モウシ}ノ
名ヲモ揚げ羽ノ蝶鳥ト、
思ヒゾいづノ藤原ノ
曾我ノ御堂ノ此ノ山モトニ
アリトシ聞ケバ、肝向ふ

心ニ禱ル大丈夫^{マサムラ}ノ
先ニ立チツツ、暗キ夜ノ
ソコトモ見エヌ目四郎ハ
馴レシ路トテみつくきノ
ふみモ迷ハズ、急ギシママニ
草鞋ハキレテ土ノ入ル
底倉ノ館ニ着キニケリ。

龍澤馬琴。………俠客傳。

安倍仲麻呂。

往古ニハ遣唐使トテ皇國ヨリ才智アル官人ヲ撰ミテ唐ヘ物學ビニ遣ハサルル事アリキ。其レニハ大使、副使、判官、主典トテ四人ヲ四艘ノ船ニ乗セテ遣ハサルル例ナレバ、此ノ遣唐使ノ事ヲ四ツノ船ト歌ニハ詠メリ。元正天皇ノ靈龜二年六月多治比真人縣守ヲ押使トシ、阿倍朝臣安麻呂ヲ大使トシ、藤原宇合ヲ副使トシテ唐ヘ遣ハサレケルガ、此ノ時下道眞備後ニ吉備大

臣ト云フ。安倍仲麻呂ヲ留學生トシテ遣ハサル。留學生トハ遣唐使ノ諸生トシテ從ヒ行ク人ヲ云フナリ。此ノ時仲麻呂十六歳ナリキ。

其ノ後十七箇年ヲ經テ、聖武天皇ノ天平五年四月ニ又多治比廣成ヲ遣唐使トシテ遣ハサル。同ジキ七年六月廣成歸朝ノ時、仲麻呂ハ唐朝ノ風ヲ悦ビテ唐ニ殘リ留マリ、吉備公計リ廣成ニ從ヒテ歸ラレケリ。此ノ吉備公十九年ガ間唐ニ在リテ、學ビ得ラレシ三史、五經、其ノ外陰陽道ノ事、軍制、陣法并ビニ諸藝ノ事共ヲ記シテ聖武

帝ニ獻ゼラレケリ。此ノ時唐禮百三十卷、大衍曆一卷、立成十二卷、孔子及ビ十哲ノ像、測影鐵尺鐵ノ方磬、律管、樂書要錄、弓箭等ヲモ捧ゲラレシヨリ、唐朝ノ禮樂制度始メテ日本ニ傳ハレリ。カクテ仲麻呂ハ唐朝ニ殘リ留マラレレ故、玄宗皇帝深ク其ノ志シテ愛デテ名ヲ朝衡ト改メサセ、左補闕ノ官ヲ授ケテ、御子儀王ノ友トセラレケルガ程ナク又秘書校書ノ官ニ遷サレケリ。

其レヨリ十五年ノ後孝謙帝ノ天平勝寶二年又遣唐使ヲ定メラル。此ノ度ハ藤原清河ヲ大

使トシ、大伴古麻呂ト吉備公トヲ副使トセラレケリ。同ジキ五年正月遣唐使ノ人人唐朝ニ入リケレバ、玄宗皇帝蓬萊宮ニ於テ外國ノ使者共ノ謁見ヲ受ケラルルニ、日本ノ使ヒノ座ヲ蓬萊宮ノ西畔ノ第二、吐蕃國ノ使ヒノ下ニ設ケ、新羅ノ使ヒノ座ヲ東畔ノ第一、大食國ノ使ヒノ上ニ設ケタリケルヲ見テ、副使タリシ大伴古麻呂之ヲ論ジテ、古ヨリ新羅ハ我が日本ヘ貢ギヲ奉レル國ナリ、然ルニ今日新羅ノ使ヒハ東ノ第一ニ列シテ、我が國ノ使ヒ其レヨリ下ニ列スルコト

不快ナル由ヲ云ヒケレバ、唐ノ大將軍吳懷寶古
麻呂ガ肯ゼザル色ヲ見テ、直ニ新羅ノ使ヒヲ引
イテ、西畔第二、吐蕃國ノ下ニ列シ、日本ノ使ヒヲ
大食國ノ上ニ列セシトゾ。此ノ時玄宗仲麻呂
ニ命ジテ、今度ノ遣唐使ヲ接待セシメラレキ。

サテ清河日本へ歸ラルル時、仲麻呂モ共ニ歸
朝セントテ、玄宗ニ暇ヲ請ヒテ歸ラレントヒシ
時、平生交ジハリヲ結ビタル詩人文人ニ書キ殘
サレシ仲麻呂ノ詩アリ。其ノ詩ハ文苑英華、唐
詩品彙等ニ載セタリ。カカリケレバ仲麻呂ノ

友タリシ王維、包佶、趙驛ナド詩文ヲ作りテ贈別
セシガ、既ニ舟出セントテ、明州ト云フ海邊マデ
出デラレケルニ、唐人餞別ノ宴ヲ設ケテ仲麻呂
ヲ饗シケリ。夜ニ入リケレバ海上ノ月ヲ見テ

青海原

ふりさけ見れば春日なる

三笠の山に出でし月かも。

ノ歌ヲ詠マレタレド、國音通ゼズレテ、唐人共其
ノ歌ノ意ヲ解スルコト能ハザリシ故、漢語ニ譯
シテ見セラレケレバ、何レモ感嘆シタリシトゾ。

其レヨリ明州ヲ船出セラレシニ、測ラズ海上ニテ難風ニ遇ヒ、既ニ魚腹ニ葬ラレントセラレシガ、辛ウシテ安南國ニ漂着シケレバ、清河ト共ニ再唐朝ニ入ラレヌ。其ノ時古麻呂ト吉備公トハ恙ナク歸朝セラレケリ。然ルニ此ノ度仲麻呂日本ヘ歸朝ノ海上ニテ難風ニ遇ヒテ溺レ死シタリシ由、唐ニ風聞アリケレバ、李白詩ヲ作リテ之ヲ哭キケリ。其ノ詩ニ、

日本晁卿辭帝都、
片帆百里繞蓬壺、
明月不歸沈碧海、
白雲秋色滿蒼梧。

晁卿トハ仲麻呂唐ニテ改名シテ朝衡ト云ヒケルニ、朝ノ字晁ノ字ト音相通ズル故、晁卿トモ云ヒシナリ。

サテ仲麻呂ハ難風ノ災ヲ逃レ、暫安南ニ在リテ、唐朝ニ歸ラレケレバ、玄宗故ノ如クニ官ヲ授ケラレ、御子肅宗皇帝ノ代ニ至リテ上元年中ニ仲麻呂ヲ右散騎常侍、安南都護ト云フ官ニ擢セラレ、又光祿大夫、御史中丞、北海郡開國公ニ轉ゼラレ、三千戸ノ食邑ヲ與ヘラレケルガ、肅宗ノ御子代宗皇帝ノ大曆五年正月ニ七十歳ニシテ唐

ニ卒セラレケレバ、代宗又潞州大都督ヲ贈官シ給ヒキ。

彼ノ仲麻呂ト共ニ歸朝セントシケル清河モ終ニ唐朝ニ留マラレシガ、此ノ人ハ左大臣房前公ノ子ナル故、孝謙帝殊ニ親愛シ給ヒテ、後ニ渤海國ノ使ヒ高元度ニコトヅケテ歸朝ヲ勸メ給ヒケレド、清河モ強ヒテ唐朝ニ留マリ、名ヲ河清トゾ改メケル。然ルニ光仁天皇ノ寶龜元年三月新羅王ヨリ級食、金初正等ヲ使ヒトシテ日本ヘ貢ギセシニ、不禮ノ事アリシ故、此ノ使ヒヲ咎

ムベカリシカド、此ノ新羅ノ使唐朝ヨリ仲麻呂清河等ガ書翰ヲコトヅカリ來タリタル功ニ免レテ其ノ不禮ヲ咎メズ、太宰府ニ於テ響應セサセ給ヒキ。同ジキ十年五月唐朝ノ使者、孫興進、秦愆期等日本ニ來タリケレバ、右大臣河麻呂ノ館ニ於テ唐使ヲ饗セサセ給ヒ、綿三千屯ヲ賜ハリテ歸國セシメ給ヒキ。此ノ使ヒノ便リニ仲麻呂ガ唐朝ニテ卒セシコトヲ聞カセ給ヒシカバ、此ノ國ノ仲麻呂ガ家ノ衰ヘタルヲ憐ミ給ヒテ、葬祭ノ料トシテ絶百足、白綿三百屯ヲ賜ハリ

キ。

其ノ後五十七年ヲ歴テ、仁明天皇ノ承和三年ニ藤原常嗣ト小野篁トヲ遣唐使トシテ遣ハサル時、先年ヨリ以來日本ノ使ヒノ唐國ニテ死シタル者八人ニ位記ヲ賜ハリ、仲麻呂ニハ正二位ヲ贈ラレケル、其ノ詔ニ「故留學問贈從二品、安倍朝臣仲滿、大唐光祿大夫、右散騎常侍、兼御史中丞、北海郡開國公、贈潞州大都督、朝衡ニ正二品ヲ贈ル。」ト書カセ給ヘリ。
尾崎雅嘉……百人一首一話。添補。

人ヲ謗ル勿カレ。

人ヲ謗レバ人亦我レヲ謗ル、人ヲ謗ルハ即我レヲ謗ルナリ。譬ヘバ天ニ向カヒテ唾吐クガ如シ。其ノ報イ甚早シ。言悖リテ出ヅレバ又悖リテ入ル。我レニ出ヅル罪ハ聽我レニ返ルコト車ノ輪ノ如シ、恐ルベキ哉。人ヲ一分謗レバ人ヨリ三分謗リ返サル。其ノ上人ニ見下サレ賤シメラル、益ナクテ損アリ、愚ナリト云フベシ。

人ヲ謗ルハ其ノ人ニ對セズ陰ニテ竊ニ云フ
コトナレバ其ノ人知ルベカラズ何ノ害カアラ
ント思フハ愚ナリ。謗リハ必洩レ易シ。俗語
ニ「惡事千里ヲ行ク」ト云ヒ、又「壁ニ耳アリ」ト云フ
ガ如シ。人ノ知ランコトヲ恐レバ云フベカラ
ズ。孟子ニ「人ノ不善ヲ言フハ後ノ患ヘヲ如何
カスベキ」ト云ヘリ。貝原篤信……大和俗訓。

終ハリ。

版權登錄

120.8

明治廿一年五月廿五日印刷
同 年六月 四日出版

定價金拾八錢

發行者

東京日本橋區本町三丁目十七番地
原 亮 三 郎

印刷者

東京日本橋區本町三丁目十七番地
關 幸 吉

大賣捌

大阪北久宝寺町四丁目十二番地
金港堂原亮三郎支店

賣 捌

岐阜 仙臺
金 港 堂 支 店

各府縣下代理大賣捌所

版權所有

